

# HAPPY TURN CHRONICLE







454

453



## かたづけて／おりかえす

「HAPPY TURN／神津島」の拠点づくりプロジェクトは、片付けと掃除を繰り返してきた。店舗・住居・倉庫・庭を片付ける。沢山の人に手伝ってもらいながら片付ける。片付けを通して出てきたものたちと向き合い、そこにあった日常に想いを馳せる。日常も非日常も受け入れる居場所は、それぞれの日常が堆積した場所の上に立ち現れる。

何度もフェリー移動をするなかで、「もうすぐ、神津島に着くんだなあ」という気分にさせてくれる景色がある。4つの島を経由し、神津島へと近づく「さるびあ丸」の船内は、ほぼ掃除が終わった状態になる。島へ上陸するよりも前に、もう一度船に乗り込んだような錯覚におちいる。すっかりリセットされたかのような船内にも、様々な人が移動した痕跡は毎日堆積されていく。神津島はフェリーの折り返し地点だからこそ、そんなフェリー船内の日常風景が際立つのだろう。「なんだかよくわからないけど、居てもよい場所」そんな、誰かの日常と誰かの非日常が交錯するポイントを作るために、これからも一緒に片付けを繰り返していきたい。

いwasawatashi (岩沢兄弟)



## はじめに

東京都心から南に約180kmに位置し、伊豆諸島の神様達が集まったとされる神津島(こうづしま)。「HAPPY TURN／神津島」は、神津島を通じて幸せに生きる選択肢を増やせるよう、島に関わりのある人々が神津島を知り、豊かに暮らすきっかけをつくるためのアートプロジェクトです。

「TURN(ターン)」には「向きを変える」という意味があります。移住や転職といった大きな決断は人生におけるターンと言えますが、いつもと違う道を通ったりいつもと違う場所に行ってみることもまた、ときには大切なターンとなりえます。ささやかな方向転換によって暮らしのなかに新たな風景や視点をもたらすこと、その変化を通じて新たな転機や機会を得ることを、わたしたちは「HAPPY TURN(幸せなターン)」と呼んでいます。

「HAPPY TURN／神津島」は2017年度以降、神津島でさまざまな活動を行ってきました。活動を重ねるなかで拠点「くると」は、庭や黒板のある「なみすけ」や配信収録や自習に使える「MANABU」といった空間を広げていき、島で暮らしている人はもちろん、島暮らしに興味をもっている人や島外から島を訪れる人など、多くの人々とつながりながら、「HAPPY TURN」のあり方を探っています。

「HAPPY TURN CHRONICLE」は、そんな本プロジェクトの軌跡を年表として編纂したアルバムです。年表には、実際に行われたイベントや行事の情報だけでなく、そこに関わったプロジェクトメンバーの“声”もまとめられています。ひとくちに「拠点をつくる」「イベントを行う」と言っても簡単に行えるわけではなく、ときには思わぬトラブルに見舞われることもあるでしょう。この年表はそんな苦闘や成功をたどるドキュメンタリーのようなものでもあるかもしれません。

実は、このアルバムはまだ完成していません。ときには新たなページが配られるかもしれませんし、いまこの文章を読んでいるあなた自身の手で更新してしまうのもいいでしょう。年表に当時の感想を書き加えてもいいですし、あなたの写真やメモを足してみてもいい。2017年より過去に遡って、あなたが生まれた年の年表をつくってみるのもいいかもしれません。このアルバムを通じて、神津島とさらに多くの人々がつながっていくことをわたしたちは祈っています。



# このアルバムの使い方

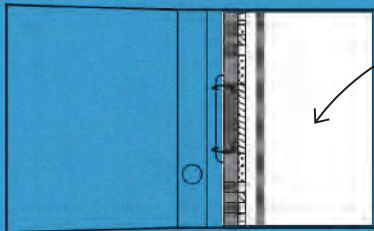
『HAPPY TURN CHRONICLE』は、主に3つのパートから構成されています。

PART 1 「HAPPY TURN／神津島」の活動を記録した年表

PART 2 活動にまつわる印刷物や写真、参考資料

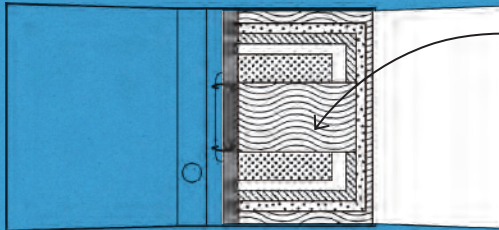
PART 3 活動の裏側やこぼれ話を集めた“当事者”年表

## PART 1 「HAPPY TURN／神津島」の活動を記録した年表



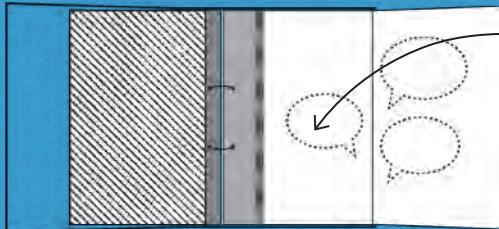
多種多様な印刷物や写真を包んでいるのが、「HAPPY TURN／神津島」の活動年表です。各年度の年表をたどることで、その年のできごとを振り返ってみましょう。

## PART 2 活動にまつわる印刷物や写真、参考資料



年表を開いてみると、そこにはさまざまなサイズの写真やチラシが綴じられています。1枚ずつめくっていくことで「HAPPY TURN／神津島」の思い出を追体験できるはず。

## PART 3 活動の裏側やこぼれ話を集めた“当事者”年表



おっと、年表を閉じる前に、その“裏面”をお見逃しなく。そこにはスタッフ陣による振り返りのコメントが書かれています。外からは見えないプロジェクトの姿が見えるかも？

以上から『HAPPY TURN CHRONICLE』は成り立っています……とりたいところですが、実はあなたが参加することでこのアルバムは完成します。メモでも写真でも落書きでもゴミでも構いません、ぜひあなたと神津島をつなぐ思い出をこのアルバムに追加してください。



4

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施（4/18～21）

アーティストコレクティブ「オル太」から斎藤隆文、川村和秀、Jang-Chiの3名とキュレーター青木彬が来島。お年寄り作文集や島の暮らしや歴史、文化について6名の方にインタビューをした。

5

## 小学1年生向け授業の実施／くるとの庭での砂遊び開催（5/20）

神津小学校1年生の図工の授業でくるとの庭が活用され、くるとの庭が学びの場となった。授業の内容は、くるとの砂場で砂遊びを行うというもの。泥団子や城・山、ハート型の池など、さまざまな作品がくるとの庭に広がった。

6

7

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施（7/6～）

オル太のメンバーが交代で来島し、約3週間かけて滞在制作を実施。島のあちこちを回りながら島の方々へのインタビューを重ねていった。

## 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため拠点クローズ（7/21～8/17）

新型コロナウイルスの全国的な広がりとともに、島内においても感染者が増えたため、拠点は1ヶ月近くにわたって休館を余儀なくされた。

8

9

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：オープンスタジオ「漂白と遍歴」開催（9/15～18）

同月上旬から来島していたオル太が、作品の制作過程を公開するオープンスタジオを開催。MANABUには制作中の作品が並べられ、島の方々とオル太のメンバーが交流する姿も見られた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：リサーチ実施（9/25～）

2023年1月のワークショップ実施に向け、大西が再び島を訪れリサーチを行った。

10

11

## 「神津島健康福祉まつり」へ出展（11/12）

初めての出張くると。島の開発総合センターで行われた健康福祉まつりにて、画用紙に絵の具やクレヨンで描いた絵を切ってだるまに貼る、カラフルだるまをつくるブースを出展した。翌月の冬まつりでは、参加者がこのだるまをお神輿に乗せて担いだ。

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：「Nature Color Picnic」開催（11/19～20）

昨年度に引き続き山本によるワークショップを開催。今回は中高生を対象とする「島の色を探す会」と、誰でも参加できる「草木染めを楽しむ会」の2部構成で行われた。

12

## アーティスト・プログラム in 神津島／テニス Courts「つくって、うたって、あるいて、おどって、大漁だ!!くると冬まつり 2022」開催（12/3～4）

ミュージシャンのテニス Courts とオリジナルのお祭りをつくる企画。1日目は海や村中を一緒に歩くあささんぽと、次の日に向けた衣装やおみこしづくりを実施。2日目はおみこしを担いだり盆踊りを踊ったり、テニス Courts のライブも行われた。なかでも、テニス Courts と島で三線を練習している方が一緒に演奏し、みんなで踊った「大漁節」はアーティスト・プログラムだからこそできた企画であった。

1

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「西ん竜風（にしんたっち）」開催（1/22）

冬の神津島に激しく吹く季節風「にしんかぜ」をもとに着想した架空の存在「西ん竜風（にしんたっち）」を通じて人と風の間を語り合う、歌と踊りのワークショップを実施。色や材質の異なる紙を組み合わせた装置を村中に持ち出して場所ごとに異なる空気の表情を感じとり、言葉を歌の句にしてかけ合う「うたかけ」と、風を体で表現してみる場が開かれた。

2

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：展覧会・パフォーマンス「漂白と遍歴」開催（2/13～19）

これまでリサーチやオープンスタジオを続けてきたオル太が島の空き家「ちょうべえ」を舞台にプログラムの成果発表となる展示とパフォーマンスを実施した。展示は島に流れつくさまざまな漂流物を神として祀る信仰の逸話から着想を得ており、神津島の歴史はもとより、海の外から来たものとの関係を問いなおす試みにもなった。

3



# 書き込み式！現場の声をあつめたプロジェクトプロジェクト当事者年表

4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
1  
2  
3

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施 (4/18~21)

アーティストコレクティブ「オル太」から斎藤隆文、川村和秀、Jang-Chiの3名とキュレーター青木彬が来島。お年寄り作文集や島の暮らしや歴史、文化について6名の方にインタビューをした。

## 小学1年生向け授業の実施／くるとの庭での砂遊び開催 (5/20)

神津小学校1年生の図工の授業でくるとの庭が活用され、くるとの庭が学びの場となった。授業の内容は、くるとの砂場で砂遊びを行うというもの。泥団子や城・山、ハート型の池など、さまざまな作品がくるとの庭に広がった。

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施 (7/6~)

オル太のメンバーが交代で来島し、約3週間かけて滞在制作を実施。島のあちこちを回りながら島の方々へのインタビューを重ねていった。

## 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため拠点クローズ (7/21~8/17)

新型コロナウイルスの全国的な広がりとともに、島内においても感染者が増えたため、拠点は1ヶ月近くにわたって休館を余儀なくされた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：オープンスタジオ「漂白と遍歴」開催 (9/15~18)

同月上旬から来島していたオル太が、作品の制作過程を公開するオープンスタジオを開催。MANABUには制作中の作品が並べられ、島の方々とオル太のメンバーが交流する姿も見られた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：リサーチ実施 (9/25~)

2023年1月のワークショップ実施に向け、大西が再び島を訪れリサーチを行った。

## 「神津島健康福祉まつり」へ出展 (11/12)

初めての出張くると。島の開発総合センターで行われた健康福祉まつりにて、画用紙に絵の具やクレヨンで描いた絵を切ってだるまに貼る、カラフルだるまをつくるブースを出展した。翌月の冬まつりでは、参加者がこのだるまをお神輿に乗せて担いだ。

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：「Nature Color Picnic」開催 (11/19~20)

昨年度に引き続き山本によるワークショップを開催。今回は中高生を対象とする「島の色を探す会」と、誰でも参加できる「草木染めを楽しむ会」の2部構成で行われた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／テニスコート「つくって、うたって、あるいて、おどって、大漁だ!!くると冬まつり2022」開催 (12/3~4)

ミュージシャンのテニスコートとオリジナルのお祭りをつくる企画。1日目は海や村中と一緒に歩くあささんぽと、次の日に向けた衣装やおみこしづくりを実施。2日目はおみこしを担いだり盆踊りを踊ったり、テニスコートのライブも行われた。なかでも、テニスコートと島で三線を練習している方が一緒に演奏し、みんなで踊った「大漁節」はアーティスト・プログラムだからこそできた企画であった。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「西ん竜風(にしんたっち)」開催 (1/22)

冬の神津島に激しく吹く季節風「にしんかぜ」をもとに着想した架空の存在「西ん竜風(にしんたっち)」を通じて人と風の間を語り合う、歌と踊りのワークショップを実施。色や材質の異なる紙を組み合わせた装置を村中に持ち出して場所ごとに異なる空気の間を感ぜたり、言葉を歌の句にしてかけ合う「うたかけ」と、風を体で表現してみる場が開かれた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：展覧会・パフォーマンス「漂白と遍歴」開催 (2/13~19)

これまでリサーチやオープンスタジオを続けてきたオル太が島の空き家「ちょうべえ」を舞台にプログラムの成果発表となる展示とパフォーマンスを実施した。展示は島に流れつくさまざまな漂流物を神として祀る信仰の逸話から着想を得ており、神津島の歴史はもとより、海の外から来たものとの関係を問いたおす試みにもなった。

飯  
中  
岩

アーティスト・プログラムはすごく楽しかったんですが、その一方で中村とのコミュニケーションのなかでストレスが溜まってしまったりもありました。ふたりだけだとついお互いへの期待が大きくなってしまったり、拠点スタッフの方にも企画へ入っていただいて苦勞や喜びを分散させたほうがいいんだな、と。このときはもう続けられないと思って、アーツカウンシルの方も交えて話し合いの場を設けました。

これはけっこう深刻でした。お互いの正しさがぶつかりあってもいたし、言葉遣いで引かかってしまうこともありでしたね。もう続けていけないんじゃないかと思うくらい。

喧嘩の“質”が変わった気がします。企画を実施するなかでのぶつかりあいではなく、企画の成功を受けて目指していく方向を決めたり目線を合わせたりする部分での衝突なのかもしれないですね。

飯

これまでのアーティスト・プログラムは拠点の雰囲気と合いそうな方を選ぶようにしてはいたんですが、オル太のみなさんはそういうわけではなかったのが、わたしたちにとっても挑戦的な試みでした。オル太が島の人から話を聞いたり、リサーチを重ね、制作する姿をみて、中村にも拠点スタッフにもオル太に対する信頼みたいなものが生まれていったように思います。

中

アーティストの方々とプログラムはどれも面白いんですが、オル太さんとはいろいろな話もできて面白かったです。オル太さんの自主企画をサポートさせていただく機会もあって、いい取り組みになったと思います。

中

お金の払込に行く行かないで揉めるとか、このころもまた喧嘩することが増えてましたね。お互いがお互いに期待していることがズレることでぶつかってしまっていたのかもしれない。

飯

日常的な事務のタスクがとて多くて、手が回らないんですね。必ずしも拠点スタッフにすべての仕事を振り切れるわけでもなくて、いままも悩みつづけています。うまくいくことばかりじゃないですね。

中

数年間、さまざまなイベントに取り組んでみて、前進しているかはわからないんですが、くるとの存在がいろいろなところに染み出している実感があります。ぼくはアーティストではないですけど、自分がやりたいことは0から1を生み出すというか、自分が動くことで誰かも動いていくみたいな状態をつくるのが好きなんだと感じました。自分の力で盛り上げたり、何かをよくしていきたいんですね。

岩

それは拠点の運営にも合っている気質なのかもしれない。とくにアーティストが来るとそのたびに変化が起きるし、アーティストならその当日の勢いでいろんなチャレンジもできるので、突発的な仕掛けを増やしていけるのが面白いですね。

飯

いろいろなイベントを企画するうえで、拠点スタッフのお母さんたちのアイデアを採用することもありました。くるとは割と自由なので、ほかの場所では却下されてしまうことも取り入れられたように思います。わたしと中村だけでなく、拠点スタッフの人たちと一緒にどんどんアイデアを出しながら企画を考えていけるようになっていました。

岩

これまで単に「ダメなものダメ」と言われていたことがくるとで実現できるようになると、既存の教育のあり方もちょっと変わるかもしれないですね。新しいチャレンジをする場所としてくるとが機能しているのかもしれない。

飯

これまでの活動で中村が自由に動いているような場所は、みんなにとっても居心地がいいんだろうなと気づかされたり、できるだけ細かいルールをつくらずにいるなど、「くるとらしさ」のようなものが生まれてきました。今後もそのよさが、じわじわと広がるようなことを続けていけたらと思います。

中

たくさんのお子さんがくるとで遊んでくれるようになりましたが、これからは遊びにも“箔”をつけたいですね。大工さんから木の切り方を教わるとか、ただ穴を掘って遊ぶだけでなく島の自然に見立ててみるとか、技術を学んだり文化を知るような遊びをつくりたい。こういうふうに来年度の企画を考える段階でまたバトルするので、まだまだバトルも続いていくのかもしれない(笑)。

## 【アーツカウンシル東京 担当プログラムオフィサーのひとこと】

目的をもって来ても、そうでなくても、出会ったことで新たに創りだされること／ものたち。そんなひらいた場所であるからこそ、遊びはなにかと出会い、また出会いによってかたちを変え、変化しつづける。次々と遊びが生みだされていく。遊びは、受け入れることのできる間、すなわち“あそび”があるからこそ創造されていくものなのだと、はっとした瞬間でした。そんな“あそび”を思い出させてくれ、安心してあそぶことのできる居場所である「くると」。私の目にはそんな風うつりました。(入江彩美)

**岩** 岩沢兄弟 (いわさわひとし・たかし)  
プロジェクトのディレクションを務めたクリエイターユニット。くるとの設計などを担当。

**中** 中村圭  
一般社団法人シマクラス神津島代表理事。島生まれ島育ちで、Uターン経験者。

**飯** 飯島知代  
一般社団法人シマクラス神津島理事。移住者。事務、運営、広報などを一手に担う。

※一般社団法人シマクラス神津島 2020年10月12日設立。HAPPY TURN／神津島の運営などを行う。



全文はこちら







くると冬まつり









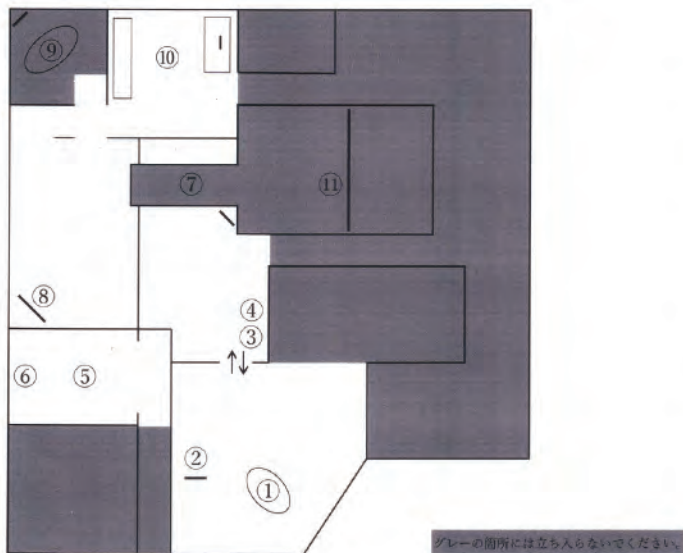
つくって、うたって、あるいて、おどって、大漁だ!! くと冬まつり





# 漂白と遍歴

## 会場マップ



### ① 《筏》

展示中の⑨《戦闘機と筏》のパフォーマンスで使用された漂流物でできた筏。

### ② 《漂流神-沐浴》

本展の中心的なモチーフのひとつである漂流神を題材にした映像作品。伊豆諸島には浜に流れ着く漂着物を神とまつる漂流神という信仰があり、神津島にはその風習が今でも残っています。

### ③⑤ 《ターナス》

ターナス (tornus:ろくろの意) とはツアー (観光) の語源となるラテン語であり、巡回旅行を意味します。小さなコップの中の渦は何かを吸い込むこともなく、ただひたすらに回転を続けます。

### ④ 《シチフク》

恵比寿と迷彩柄に着色されたアメリカ軍に乗る大黒天が並んだ作品。それぞれ漁業と農業の福の神でもあるため一組で信仰されることも多い七福神ですが、恵比寿は海から流れ着いた漂流神、大黒天は元来仏教では戦闘神ともされていました。大漁道福と五穀豊穣、漂流神と戦闘神、様々な一面が重なる2体の神様からは、本展に徹底する漂流、戦争、観光などのキーワードが感じさせられます。

### ⑥ 《Interview card》

2022年の滞在中に神津島の人々に島の歴史や風習、産業、個人的な思い出まで色々な話を聞き、それらにまつる出来事をデジタルデバイス上で書き起こしたドローイング。

### ⑦ 《タンチョウのデコイ》

デコイとは、狩猟やおとりを使う鳥の模型のことを指し、戦時中は敵の目を欺く兵器としても用いられました。本作のモチーフには JAL のジャンボジェットにも描かれた鶴 (タンチョウ) が選ばれています。タンチョウは英名では「Manchurian crane (満洲の鶴)」とも呼ばれており、タンチョウの生息エリアから名前が取られたことがわかります。1932年に日本は満洲国を建国しましたが、第2次世界大戦後に中国に復属したことで満洲の名も消滅しました。また、神津島より少し南には鳥島という島があり、そこには鳥たちの繁殖を促すためにアホドリを模したデコイが設置されています。観光の象徴としての鶴、繁殖を促す鳥のデコイ、戦争兵器としてのデコイ。いづれも様々な関心の的となってきたのですが、島の漂流物によって構築された本作にはどこか空虚さも感じられます。

### ⑧ 《寄物の道》

神津島には旧暦の1月24日に、伊豆諸島に伝わる漂着神にまつわる逸話の一種とされる二十五日様という風習があります。海から上がってくるその存在は見えないものとされ、当日島民は外出を控え家に籠ることでなっています。本展会期中である2月14日~15日はこの二十五日様に当たるため、島の風習に倣って開場時間が短く設定されています。映像では漂着していたヤシの実を用いて、二十五日様に通るとされている島の道を描いています。

### ⑨ 《第一列島線と第二列島線のデコイ》

本作は神津島の廃屋から出てきたプラスチック皿に描かれた唐子絵 (松の木の下で無心にたわむれる中国、唐の子供達を描いたもの) がモチーフになっています。1982年にアメリカ軍に対して鄧小平が打ち出した中国の人民解放軍近代化計画での概念である第一列島線や第二列島線の上で跳ね回る漂着物の子供達は、国家、神話、戦争のデコイとして表現されています。

※第一列島線:九州~沖縄~台湾~フィリピン~ボルネオ島

※第二列島線:伊豆諸島~小笠原諸島~グアム、サイパン~ハワイ~ニュージーランド

### ⑩ 《デイリー・ファウンド・オブジェ 神様》

ファウンド・オブジェとは、本来の機能ではなく美術的価値へと転換された物を指す言葉で、1920年代にゴミや日用品を用いた作品がその始まりとされます。本作は二十五日様をはじめ伊豆諸島に伝わる漂流神に着想を得て、日々収集した漂流物から海岸に漂着した神様に見立てたオブジェを制作。素材の多くは、近年世界中の海岸で発見されているプラスチック製の人工小石とも呼ばれるもので、プラスチックが溶けて固まった形状はあたかも溶岩から出てきた自然の小石に酷似しています。用いられている素材の背景に目を向ければ、日本を含めた先進国から途上国への廃棄物処理を目的に輸出されるプラスチック、蓄積してしまっている海洋中のマイクロプラスチックなど海を跨ぐなかで国家間や自然環境の問題も想起されます。

### ⑪ 《漂着神のデコイ》

漂流しながら手に持っている粘土で、伊豆七島に伝わる幽霊の一種である海難法師をつくっている映像作品。

### ⑫ 《戦闘機と筏》

二十五日様や漂流神の逸話から着想を得て制作した映像作品。漂流神と思われる異形の人が、筏で海を漂いながら戦闘機のオブジェを掲げ、陸に上がると島の中を徘徊しています。島民に死を予感させる海のかなたの来訪者が、まるでスナイパーが着用するカモフラージュ用のギリースーツのように漁網を被って、神とも亡霊ともつかない姿で表されています。





# オル太 OLTA

# 漂白

# Bleach and itinerancy

# と 遍歴



アーティスト・プログラム in 神津島 / オル太  
Artist Program in Kouzushima/OLTA

EXHIBITION 2023.2.13 (Mon) - 19 (Sun)  
PERFORMANCE 2.17 (Fri) - 19 (Sun)  
会場 ちょうべえ (東京都神津島村 818)



アーティスト・プログラム in 神津島 / オル太

# 漂白と遍歴



Artist Program in Kouzushima/OLTA  
Bleach and itinerancy

伊豆諸島の神様達が集まったとされる神津島を舞台に、様々な立場から島に関わる人とつながり、それぞれの暮らしや考え方を学び合うことを目指したアートプロジェクト「HAPPY TURN / 神津島」。「アーティスト・プログラム in 神津島」の一環として、2022 年春からアーティスト集団「オル太」を招聘し、神津島の歴史や風土のリサーチを通じた作品制作を続けてきました。

『漂白と遍歴』では、島の空き家「ちょうべえ」を舞台にプログラムの成果発表となる展示、パフォーマンスを行います。島に流れ着く様々な漂流物を神として祀る信仰の逸話から着想を得た本展では、独特の風習が残る神津島の歴史だけでなく、海を隔てた他国との関係まで思いが巡らされます。島民へのインタビューや文献調査を繰り返し、実際に島で収集された漂流物などで制作された作品からは、豊かな自然や神話と人々の関わりから、現在に至る暮らしとの結びつきを考えをきっかけになるでしょう。

企画協力：青木彬

## 日程

令和 5 (2023) 年 2 月 13 日 (月) ~ 19 日 (日)

	13日 (月)	14日 (火)	15日 (水)	16日 (木)	17日 (金)	18日 (土)	19日 (日)
展示 (10:00~)	~19:00	~15:00	~15:00	~19:00	~19:00	~16:00	~16:00
パフォーマンス	/	/	/	/	19:30~	16:30~	16:30~

- ※ 14日、15日は島の風習、二十五日様のため 15時までで終了。
- 定員：各日程 15名 申込優先、展示観覧は申込不要
- 料金：無料
- ※ 17日、18日、19日は、パフォーマンスの準備のため開演 30分前から展示を観ることができません。
- ※ 開場は開演 10分前からとなります。
- ※ パフォーマンス中、会場外に移動する可能性があります。
- ※ 当日の記録は、本事業の運営・広報に使用される場合がございます。
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。

## 会場

ちょうべえ (東京都神津島村 818)

## アクセス

東京・竹芝客船ターミナルより  
大型夜行客船で約 12 時間  
東京・調布飛行場より  
小型飛行機にて約 45 分

- ※ 神津島は日帰りでの来島はできませんので、必ず宿泊施設をご予約ください。
- ※ 宿泊のご相談は、神津島観光協会までお願いいたします。
- ※ 時期によって運行時刻が異なる場合や、天候によって欠航となる場合がございます。必ず出発前に各社ウェブサイト等からご確認ください。
- ※ 欠航やキャンセルによる費用等の補償はございませんので、予めご了承ください。



弟が「遍歴、この遍歴は遍歴」といいながら歩いてた。



撮影：百瀬たけし

## オル太

2009年に結成した6名のアーティスト集団。メンバーは、井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義明、メグ忍者、Jang-Chi。2011年に岡本太郎賞受賞。創造行為、ひいては人間の根源的な欲求や感覚について、自らの身体をパフォーマンスという形で投げ、問いかけている。近年の展覧会や公演に『ニッポン・イデオロギー (仮)』(YPAM ディレクション、KAAT 神奈川芸術劇場、2022)『耕す家：不確かな生成』(アークスプロジェクト、2022)『青森 EARTH2019：いのち耕す場所—農業がひらくアートの未来』(青森県立美術館、2019) 釜山ビエンナーレ 2016 (F1963、2016) など。2022年度に Jang-Chi がセゾン文化財団セゾン・フェローに採択される。

その中で腐って、骨だけが残る。



二十五日様は回暦でいうと1月24日から25日。島へ神様がやってくる日。

## お申し込み・お問い合わせ先

HAPPY TURN / 神津島 事務局

〈メール〉 info@shimaclass.tokyo

パフォーマンスの観覧をお申し込みの方は件名を「漂白と遍歴申し込み」とし、希望日、お名前、人数をお伝えください。

〈くると来場〉 木・金・土 10:00~16:00  
くると住所 神津島村 998

- ※ 個人情報保護法に基づき、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。
- ※ 本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。
- ※ プログラム内容は変更になる場合がございます。

「くると」開演日は公式 SNS 又は全戸配布「くるとのおしらせ」のカレンダーをご覧ください。



アーティスト・プログラム in 神津島 / オル太  
「漂白と遍歴」展覧会・パフォーマンス  
(外) フライヤー / デザイン メグ忍者  
(中) ハンドアウト / 撮影 縣健司

※ 『HAPPY TURN CHRONICLE』用 2 再編集



創作ワークショップ

工作 × パフォーマンス

HAPPY  
TURN  
/ 神津島

# 西ん竜風

にっしんたっち

令和5年(2023年)

1月22日(日)

10:00~12:00 「風をとらえる!? スペシャル装置を作ろう」

13:00~15:00 「“西ん竜風”を探しに散策&エピソードを持ち寄ろう」

会場：くると(神津島村998) ※申し込み制

※ 午前午後連続のプログラムです。

どちらかのみ参加ご希望の場合は事前に事務局までご相談ください。

※ 昼食等の用意はありませんので各自でご用意ください。

アーティスト・プログラム in 神津島

大西 健太郎

冬の神津島に激しく吹く季節風「にしんかぜ」をもとに着想した架空の存在〈西ん竜風(にっしんたっち)〉を通して人と風の新たな関係を語り合う、うたと踊りの創作ワークショップです。色や材質のちがう紙をいくつもつないだ特別な装置を工作。村中へ出かけ、その装置を設置します。家の戸、窓の周り、路地裏や植込みなど、場所の特性によって異なる表情を見せる空気の中に〈西ん竜風〉を発見します。行った先々で出会った個々の物語りを持ち寄り、言葉をうたの句にして他者とかけ合う「うたかけ」の場をひらきます。

主催：東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
一般社団法人シマクラス神津島



詳細・申し込み方法は  
裏面へ → → →



# 西ん竜風

にっしんたっち

HAPPY  
TURN  
／神津島

**会場** くと（神津島村998）

**定員** 15名程度（どなたでもご参加いただけます）

**参加費** 無料

※汚れてもよい服装でお越しください。

※当日の記録は、本事業の運営・広報に使用させていただきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。

※少雨決行、荒天中止。最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。



ウェブサイト

**申し込み・お問い合わせ先**

※「くと」開室日は公式 SNS 又は、  
全戸配布「くとのおしらせ」のカレンダーをご覧ください。

HAPPY TURN / 神津島 事務局

[メール] [info@shimaclass.tokyo](mailto:info@shimaclass.tokyo)

[来場] 木・金・土 10:00~16:00



Instagram

## プログラム専門サポーター募集！

アーティスト大西健太郎さんと一緒に参加者を迎える目線を楽しみながら、当日までの準備、運営を一緒に行います。アートプロジェクトに関わってみたい方、くとの活動を知りたい方、少しでも興味のある方は上記お問い合わせ先よりお気軽にお問い合わせください。

**募集人数** 8名程度（中学生以上 先着順）

**参加資格** 事前レクチャー（1月21日までのご都合の良い時間 30分程度）  
及び、22日当日（9:30~15:00）に参加できる方

## アーティストプロフィール

**大西 健太郎**（おおにしけんたろう）

1985年生まれ。ダンサー／パフォーマンスアーティスト。東京藝術大学大学院 先端芸術表現科 修了。その場所・ひと・習慣の魅力を発掘し、それらと出会う過程を通じて「こころがおどる」風景を舞台としてパフォーマンス作品を制作する。住まう地域、国、言語、世代、障がいの有無など、異なる背景を持つ「他者」との協働を軸として制作過程を含めた参加型のパフォーマンスプロジェクトを行う。

※ 個人情報は厳重に管理し本事業の運営およびご案内にのみ使用します。

※ 本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

※ プログラム内容は変更になる場合がございます。





22





(裏) 撮影 小野悠介





くると  
冬まつり  
2022

2022 (令和4) 年

12月3日 (土) 9:00~16:00

🐟 みんなおいで! おまつり準備

12月4日 (日) 10:00~17:00

🐟 くると冬まつり

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人シマクラス神津島

HAPPY TURN  
/ 神津島

ARTS COUNCIL TOKYO

シマクラス  
神津島

アーティスト  
・プログラム  
in 神津島

テニス  
コート

くるとオリジナルのお祭りをミュージック  
シャン・テニスコートの2人と作っちゃおう!  
いったい、どんなお祭りになっちゃうの!?  
ドキドキ、ワクワク、大人も子どもも、  
みんなでワッショイ!!





# つくって、うたって、 あるいて、おどって、大漁だ!!

12月3日(土) ..... プログラム

🐟 みんなおいで! おまつり準備

## ① 耳と目を澄ませ! あささんぽ

テニスコーツの2人と一緒に神津島を散歩して、  
手作り楽器やおみこしの材料を見つけます

🐟 9:00 くると集合 / 9:10 出発

## ② くるとみこしを完成させよう! 楽器や衣装をつくってみよう!

次の日に向けて、くるとみこしの飾り付けや衣装  
づくりをします

🐟 13:00~16:00 (出入り自由)

申し込み  
不要!

アーティスト・プログラム in 神津島/テニスコーツ

🐟🐟🐟 会場 くると (神津島村 998)

12月4日(日) ..... タイムテーブル

🐟🐟🐟 くると冬まつり

どなたでもいつからでも  
参加できます!

10:00 オープン

10:30 うたって、ならして、くるとみこし

手作りおみこしを、楽器を鳴らしながら担ぎます

12:00 昼休憩

13:00 おどって遊ぼう! 冬でも盆踊り!

大漁節や神津セレナーデなどをみんなで踊ります

14:00 お楽しみ会 (1時間程度)

16:00 テニスコーツスペシャルライブ (30分程度)

この日しか聞けないスペシャルライブです  
生の演奏にしかない響きを感じに、ぜひくるとへ!!

🐟🐟🐟 申し込み優先 定員 25名程度

席に空きがある場合は当日受付も行います。  
最新情報は公式 SNS をご覧ください。

## テニスコーツ tenniscoats

さや (Vocal) と植野隆司 (Guitar) が学  
生時代に出会い、1995 年より majkick  
レーベルを始動。以後、国内・海外での  
アルバムリリース、コラボレーションを数  
多く行う。他にも多くのバンドを主宰/参

加し、近年は、ドイツの The Notwist のメンバーと組んでいるバンドの Spirit Fest、管楽団  
ざやえんどうでの活動などがある。2020 年、ストリーミングサイト Minna Kikeru を仲間と  
立ち上げ、運営に携わる。インディミュージックの音楽を広く掲載する。コンピレーション  
『Minna Miteru』シリーズ編集もし、リリースされた (2021, 2022 Morr Music ドイツ)。

🐟 <https://minnakikeru.com/>

## お申し込み / お問い合わせ

HAPPY TURN / 神津島 事務局

メール 🐟 info@shimaclass.tokyo

スペシャルライブにお申し込みの方は、  
件名を「スペシャルライブ」とし、  
お名前、人数をお伝えください。

来場 🐟 木・金・土 10:00~16:00

※「くると」開室日は公式 SNS 又は 全戸配布  
「くるとのおしらせ」のカレンダーをご覧ください。

両日も  
参加費  
無料



Instagram

HAPPY  
TURN  
/ 神津島

「HAPPY TURN / 神津島」とは

様々な立場から島に関わる人とつ  
ながり、それぞれの暮らしや考え方  
を学び合うことで「幸せなターンの」  
かたちを探るプロジェクトです。

※ 本事業は「東京アートポイント計画」として  
実施しています



ウェブサイト

- ※ 会場が混雑した場合、入場を制限をする場合がございます
- ※ 当日の記録は、本事業の運営 広報に使用する場合がございます。
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。
- ※ 個人情報保護法に基づき、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。
- ※ プログラム内容は変更になる場合がございます。

アーティスト・プログラム in 神津島 / テニスコーツ  
「くると冬まつり 2022」フライヤー  
デザイン ミヤジユコ

※ 『HAPPY TURN CHRONICLE』用 2 再編集



HAPPY  
TURN  
/ 神津島

アーティスト・プログラム  
in 神津島  
山本愛子

◎植物や資源を探して、島の色を布に染めよう!!

# Nature Color Picnic .. 2022..

島でよく見る葉っぱや枝は  
何色に染まる?

温泉の水や薪ストーブの  
灰を使うと何色に変わる?

島を散歩して  
見つけた植物や鉱物を使って、  
島の色を布に染めます!

## 島の色を探す会 / 草木染を楽しむ会

日程 令和4年(2022年)

1日目 島をさんぽして材料を探します  
11/19(土) 13:00~16:00

2日目 見つけた植物で染色します  
11/20(日) 10:00~12:00

対象 中学生・高校生

定員 6名程度(事前申込制)

\*2日間のプログラムです。  
両日ご参加できる方を優先します。

集合 くと(神津島村998)

日程 令和4年(2022年)

11/20(日) 14:00~16:30

予約不要 最終受付 16:00

対象 どなたでも参加できます!

会場 くと(神津島村998)

- \*材料がなくなり次第、受付を終了します。
- \*混雑した場合、入場を制限する場合がございます。
- \*ご自身で染めたい布がありましたら持参可能です。

素材は綿・麻・絹のみ。お一人Tシャツ1枚程度まで。  
素材によってはうまく染まらない場合がございます。

◎お手伝いボランティア募集中です。

◎島外の方もご参加いただけます!!

### 山本愛子 (やまもと あいこ)

染色技術を用いて、土地から得られる資源を活用した作品を制作している。また、自身が畑で育  
てた植物から染料を生成することにも日々取り組む。

1991年神奈川生まれ 東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。

ウェブサイト: <https://www.aikoyamamoto.net/>

Instagram: @aiko.yamamoto\_

### 申し込み・お問い合わせ先

HAPPY TURN / 神津島 事務局

[メール] [info@shimaclass.tokyo](mailto:info@shimaclass.tokyo)

[来場] 木・金・土 10:00~16:00



Instagram

※「くと」開室日は公式 SNS 又は、  
全戸配布「くとのおしらせ」のカレンダーをご覧ください。

- ※ 個人情報は厳重に管理し本事業の運営およびご案内のみ使用します。
- ※ 本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。
- ※ プログラム内容は変更になる場合がございます。

- ※ 汚れてもよい服装でお越しください。
- ※ 当日の記録は、本事業の運営・広報に使用する場合もございます。
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。
- ※ 少雨決行、荒天中止。最新情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

12月以降も続々とアーティストプログラム開催予定!!

詳細はウェブサイトから。

主催: 東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
一般社団法人シマクラス神津島



ウェブサイト



# くるとのおらせ Vol.29

くると再開しました!  
今年度もよろしくお願ひします。

令和4年度スタッフ  
ひとこと



- 1 中村 圭 (なかむら けい)**  
相変わらずの中村圭です くるとで、ハッピーなターンが生まれるようにせっせと活動しています! 色々とお企てましょー!
- 2 飯島 知代 (いいじま ともよ) ㊦**  
みどりの髪の飯島です。知っていることを改めて見返したり、新しいモノや人、考え方に会えるようなプログラムを考えていきます。今年度もよろしくお願ひします。
- 3 八島 麻衣 (やしま まい) ㊦**  
フラと手仕事をこよなく愛する八島麻衣です。くるとで出会う人たちと、新しい発見や気づきを楽しんでいたら嬉しいです ^^ 一緒にワクワクすること探していきましょう。
- 4 野口 愛美 (のぐち まなみ) ㊦**  
移住 2 年目の愛美です。まだまだ神津島について知らないことが沢山あるので楽しい情報教えて頂けると嬉しいです。くるとでお会いできることを楽しみにしています!
- 5 角村 悠野 (かくむら はるの) ㊦PM**  
男児 3 人のお母さんしてます、はるのです。コンテンポラリーダンサーで、ヨガ講師の、超カラダおたく! くるとには毎週木曜午後に来ています! ぜひお話しましょー!

## 6月のカレンダー - くるとオープン日 (7月は、お前の様!)

月	火	水	木	金	土	日
		1	2 10:00 16:00	3	4	5
6	7	8	9 10:00 16:00	10	11	12
13	14 満月	15	16 10:00 16:00	17	18	19
20	21	22	23 10:00 16:00	24	25	26
27	28	29 * 新月 星がキレイ	30 10:00 16:00	予定は変更になる場合があります。		

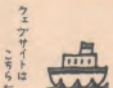
あそぶ人、話す人、のんびりする人、勉強する人、  
くるとは、だれでも使えるゆるやかな場所です。  
どんな場所? と、気になった方は、ぜひ一度、  
来てみてください。日々の様子には、スタッフ  
5人でインスタグラムを更新中です!  
フォローしてみてくださいね 😊

アクセス | 前浜海岸から徒歩6分 (神津島村 998)  
くると | 木 金 土 【10:00~16:00】  
★どなたでも自由にお使いいただけます。フリー Wi-Fi ㊦  
問合せ | 080-1346-2800 (木 金 土 10:00~16:00)

★新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続きご理解と協力をよろしくお願いいたします。

- ㊦ 入り口での手の消毒とマスク着用のご協力をお願いします。
- ㊦ 2メートル程度距離をあけてお過ごしください。
- ㊦ 発熱のある方、少しでも体調が悪い方は入場をお控えください。

主催 東京都、公益財団法人東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人シマクラス神津島  
※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。



(表) アーティスト・プログラム in 神津島 / 山本愛子  
「Nature Color Picnic」メンバー  
「ゆるゆるサマナー」Vol.29

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用紙再編集





## アーティストプログラム in 神津島 / オル太 オープンスタジオ『漂白と遍歴』

【日 時】令和4年9月15日(木)~9月18日(日) / 10:00~19:00

【会 場】くると(旧万作商店) 神津島村997 ※くるとから展示会場へご案内します

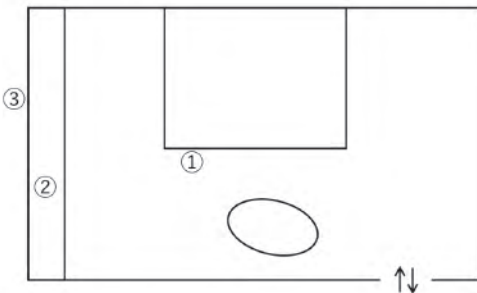
「アーティストプログラム in 神津島」の一環として、2022年春から6人組のアーティスト集団「オル太」が神津島を題材にした作品の制作を続けています。何度も滞在を重ねながら、島のあちこちを見て回り、島の方々へのインタビューや文献調査を繰り返してきました。今回はその制作過程を公開するオープンスタジオを開催いたします。制作中の作品を鑑賞したり、会場にいるアーティストから作品の話聞くことで、いつもとは違った神津島の魅力をお楽しみください。

### コンセプト

漂着神の逸話からデコイを作り人間がつくったものによる表現として神話と戦争を問う。漂着神とは潮流や風によって浜に流れ着く漂着物(寄物)を神としてまつる信仰で、寄神ともいう。一方、デコイとは、元来、狩猟で罠に使う鳥の模型であり、兵器にも用いられる。



### 第一会場 (MANABU)



#### ①映像『戦闘機と筏』(仮)

寄神の逸話をもとに制作した漂着物でできた筏に乗り、海を漂うパフォーマンスの記録映像。戦闘機を模したオブジェを掲げる。

#### ②『デイリー・ファウンド・オブジェ 神様』(仮)

島で見つけた漂流物を組み合わせて海岸に漂着した神に見立てる。

近年、プラスチック製の人工小石は世界中の海岸で発見される。2014年にハワイのオアフ島のビーチでプラスチックが燃えてできる新種の岩「プラスティグロメレート」が最初に報告された。ビーチで人々がたき火をすることで生まれた可能性があり、プラスチックが溶けて固まった形状は溶岩からできた自然の小石に酷似している。先進国は廃プラスチックを途上国に輸出しており、2019年の輸出上位国はドイツ、日本、米国である。

#### ③『Interview card』(仮)

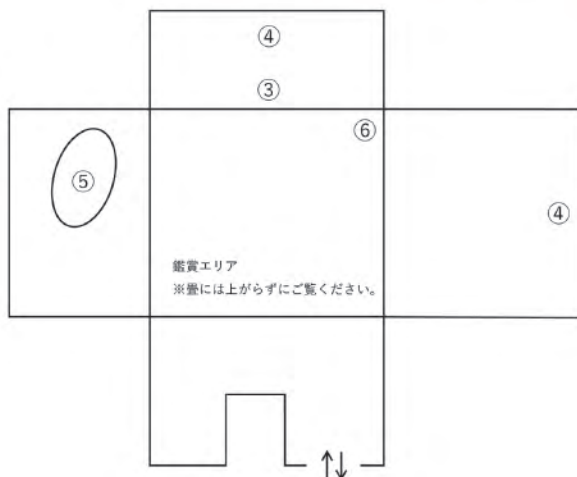
神津島で話を聞き、それらにまつわるドローイングをデジタルデバイス上で書き起こした。話し手の記憶をメモとしてのビジュアルに変換する。







## 第二会場（長兵衛）



### ④映像『漂着神のデコイ』

二十五日様の逸話から着想した、漂流しながら粘土で神様（海難法師）をつくる映像。（漂着神とは潮流や風によって浜に流れ着く漂着物（寄物）を神としてまつる信仰で、寄神ともいう。）伊豆諸島の海南法師に特異なのは、島民に死を予感させる海彼の来訪者が神とも亡霊ともつかないおそろしい形象であるところである。

### ⑤『第一列島線と第二列島線のデコイ』

伊豆諸島には、漂着神という潮流や風によって浜に流れ着く漂着物（寄物）を神としてまつる信仰がある。神津島の廃屋から出てきたプラスチック皿には、「唐子絵」という松の木の下で無心にたわむれる中国、唐の子供たちが描かれている。この絵柄から海の漂流物を用いたファウンド・オブジェをつくる。オブジェのベースには、第一列島線や第二列島線が描かれている。この漂着神を模した廃棄物でつくられたオブジェは、国家、神話、戦争のデコイ（囿）である。

第一列島線、第二列島線は、1982年にアメリカ軍に対して鄧小平が打ち出した中国人民解放軍近代化計画での概念である。

第一列島線：九州～沖縄～台湾～フィリピン～ホルネオ島

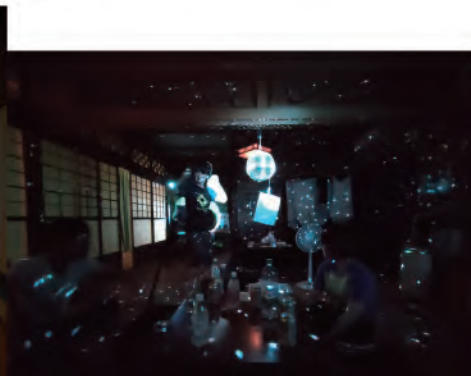
第二列島線：伊豆諸島～小笠原諸島～グアム、サイパン～バブアニューギニア

### ⑥『タンチョウのデコイ』（仮）

スタジオにあった JAL の古い時刻表から作成。時刻表には旅行にいざなう島特有のキャッチフレーズやイメージが掲載されており、当時の離島への観光ブームをうかがわせる。

JAL のジャンボジェットにも鶴が描かれている。この鶴のイラストはタンチョウを模して描かれているとも言われている。タンチョウの英名を「Red-crowned crane」といい、もう一つの英名である「Manchurian crane」は、「満州の鶴」という意味を持っている。タンチョウの生息エリアである満州から取られたことがわかる。1932年にこの地域を占領した日本は満州国を建国したが、第2次世界大戦後に中国に復帰し、それとともに満州の名も消滅した。

また、伊豆諸島南に位置する鳥島という島がある。そこにはアホドリを模した立体、デコイが設置されている。アホドリを誘う音が流れ、繁殖を促す装置となっている。デコイは軍事的な用途においては爆弾を誘導する囿のことで、空気が膨らみますものや、第2次世界大戦時の日本では竹で作られた零戦型デコイがある。



アーティスト・プログラム in 神津島 / オル太  
「漂白と遍歴」オープンスタジオハンドアウト  
（※）写真 百頭たけし



4

5

6

7

## 「MANABUのペンキ塗りをしよう」開催（7/24, 29～30）

自習室「MANABU」の放送室機能を拡張すべく、前年度から改装準備が進められていた。岩沢兄弟らの手によって、小上がりスタジオが完成。自習室用のカウンターも設置され、環境が整った。仕上げとして、自習室内の壁を白く塗るイベントが開催された。

8

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：リサーチ実施（8/25～）

2021年度からアーティストを招いたプロジェクトが始動。1人目となるパフォーマーの大西健太郎がリサーチのために来島し、事務局メンバーとミーティングを行った。

## 第3回「島の庭びらき」開催（8/28）

3回目となる庭びらきでは、第1回で訪れた旧基寿司の庭を再訪問。大人8名、こども4名が集まり、草刈りをしたり、自己紹介をしたりしながら交流した。

9

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：リサーチ実施（9/7～）

大西のプログラムと並行し、美術家・山本愛子によるリサーチも実施された。染色による作品制作を行う山本は、島の植物で染色を行えないか実験も進めていった。

10

11

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「くると盆栽づくり」開催（11/27～28）

大西によるプログラムは、砂浜の貝殻や流木、庭の草木など島の素材を使ってオリジナルの「盆栽」をつくるもの。当日は多くのこどもたちの手によって個性的な盆栽が数多く生まれた。

12

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「盆栽流し」開催（12/12）

前月に制作したオリジナルのくると盆栽を、岩沢兄弟が見つけた乗りものに乗せて村中に連れていくプログラム。盆栽に島を案内するようにして、参加者は普段と異なる感覚で風景を捉えることとなった。

1

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：「景色から染まる色」開催（1/15～16）

島を歩きながら探した植物や資源によって染色を行うことで、五感から島の景色を感じとるプログラム。椿やレザーフアン、明日葉、パッションフルーツ、松ぼっくりなど、島内の植物を使うことで多種多様な「色」が生まれていった。

2

## 「くるとみくじをつくろう」開催

神津島にはおみくじがないため、こどもたちとともにオリジナルのおみくじをつくるワークショップを実施。「大大大大大吉」など個性豊かなおみくじが数多く生まれた。

## 「島の風習「二十五日様」竹やトイレットペーパーの芯を使ってお守り「いもじり」をつくろう」開催

神津島に残る風習「二十五日様」にまつわる「いもじり（いぼじり）」というお守りをつくるイベント。本来は島内の竹を使うが、このイベントでは身近なものを使い簡易的ないもじりがつくられた。

3

## 第4回「島の庭びらき」開催（3/5）

第4回を迎えた庭びらきは原点に回帰し、くるとの庭の整備が行われた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施（3/10～13）

アーティストコレクティブ「オル太」から井上徹と長谷川義朗、メグ忍者の3名、そしてインディペンデント・キュレーターである青木彬が来島し、リサーチを実施。4日間かけて島中の自然や施設を見て回った。

## 「くると放送室を使って、映像を撮ってみよう」開催（3/24）

撮影機材が設置され放送室へと拡張したMANABUで、実際に映像撮影を体験するイベントが開催された。

# 書き込み式！ 現場の声をあつめた プロジェクト 当事者年表

4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
1  
2  
3

## 「MANABUのペンキ塗りをしよう」開催 (7/24, 29~30)

自習室「MANABU」の放送室機能を拡張すべく、前年度から改装準備が進められていた。岩沢兄弟らの手によって、小上がりスタジオが完成。自習室用のカウンターも設置され、環境が整った。仕上げとして、自習室内の壁を白く塗るイベントが開催された。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：リサーチ実施 (8/25~)

2021年度からアーティストを招いたプロジェクトが始動。1人目となるパフォーマーの大西健太郎がリサーチのために来島し、事務局メンバーとミーティングを行った。

## 第3回「島の庭びらき」開催 (8/28)

3回目となる庭びらきでは、第1回で訪れた旧基寿司の庭を再訪問。大人8名、子ども4名が集まり、草刈りをしたり、自己紹介をしたりしながら交流した。

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：リサーチ実施 (9/7~)

大西のプログラムと並行し、美術家・山本愛子によるリサーチも実施された。染色による作品制作を行う山本は、島の植物で染色を行えないか実験も進めていった。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「くると盆栽づくり」開催 (11/27~28)

大西によるプログラムは、砂浜の貝殻や流木、庭の草木など島の素材を使ってオリジナルの「盆栽」をつくるもの。当日は多くの子どもたちの手によって個性的な盆栽が数多く生まれた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／大西健太郎：「盆栽流し」開催 (12/12)

前月に制作したオリジナルのくると盆栽を、岩沢兄弟がつくった乗りものに乗せて村中に連れていくプログラム。盆栽に島を案内するようにして、参加者は普段と異なる感覚で風景を捉えることとなった。

## アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子：「景色から染まる色」開催 (1/15~16)

島を歩きながら探した植物や資源によって染色を行うことで、五感から島の景色を感じとるプログラム。樺やレザーファン、明日葉、パッションフルーツ、松ぼっくりなど、島内の植物を使うことで多種多様な「色」が生まれていった。

## 「くるとみくじをつくろう」開催

神津島にはおみくじがないため、子どもたちとともにオリジナルのおみくじをつくるワークショップを実施。「大大大大大吉」など個性豊かなおみくじが数多く生まれた。

## 「島の風習「二十五日様」竹やトイレットペーパーの芯を使ってお守り「いもじり」をつくろう」開催

神津島に残る風習「二十五日様」にまつわる「いもじり(いぼじり)」というお守りをつくるイベント。本来は島内の竹を使うが、このイベントでは身近なものを使い簡易的ないもじりがつくられた。

## 第4回「島の庭びらき」開催 (3/5)

第4回を迎えた庭びらきは原点に回帰し、くるとの庭の整備が行われた。

## アーティスト・プログラム in 神津島／オル太：リサーチ実施 (3/10~13)

アーティストコレクティブ「オル太」から井上徹と長谷川義朗、メグ忍者の3名、そしてインディペンデント・キュレーターである青木彬が来島し、リサーチを実施。4日間かけて島中の自然や施設を見て回った。

## 「くると放送室を使って、映像を撮ってみよう」開催 (3/24)

撮影機材が設置され放送室へと拡張したMANABUで、実際に映像撮影を体験するイベントが開催された。

飯

MANABUで自習室以外のプログラムを行うにあたって、オンラインで島外の方々ともっと気軽につながれる場をつくろうと思い放送室を整備していました。ただ、この年からアーティスト・プログラムが本格的に始動したこともあり、その活用に時間を十分つくれなかったことも事実です。

岩

グリーンバックってすごく象徴的なのがいいですね。映像を撮る場所だと誰でもわかるし、実際にグリーンバックを使って子どもたちがめちゃくちゃ遊んでました。

飯

最初はどんなアーティストの方にお声がけすればいいかわからないし、企画書もぜんぜん書けなかったんです。「子どもがよく来る場所」「音楽のイベントをやりたい」「普段来ない人に来てほしい」などいろいろな条件や要望を話すなかで、アーツカウンシル東京のプログラムオフィサーの方に大西さんを紹介していただきました。大西さんはボランティアの方々をうまく巻き込んだり人と人の関わりをつくるのがうまくて、勉強になりました。

中

これまでは自分たち主体の企画をつくるが多かったのですが、楽しくもある一方で、ぼくの理想とはズレてしまっている気もしてきて。アーティスト・プログラムを通じて島の外から人を呼び、島のことを好きになったり知れたりする機会をつくれたのは嬉しいですね。ただ、当初自分が描いていた「HAPPY TURN」というターンに対してこのプログラムをどうつないでいくのか、きちんと考えきれていなかったのも事実です。

中

庭びらき自体は楽しいものではあるものの、続けていくなかで行き詰まりも感じていました。片付けの先に進むことが難しかったですね。

飯

大西さんや山本さんとの取り組みを通じて、この場を開放しながらいろいろな人に相談していくのがくるとっぽい振る舞いなのかもと思うようになりました。

飯

子どもとお母さんなど家族はグループを変えるなどの工夫があって、いつも話さないような人と一緒に作業できる仕組みをつくったのがよかったですね。あるお母さんからは「久しぶりに集中して創作に取り組めて楽しかった」という感想をもらいました。

飯

いろいろなプログラムを行っていくなかで、くるとのファンが少しずつ増えてきた実感がありました。「次は何やるの?」と聞いてくれたり、いつも遊びに来てくれたりする人が増えてきていて。アーティスト・プログラムって保育園とは異なるアプローチで子どもと関われるので、お母さんからそこを評価されることもありましたね。くるとの魅力を言葉にしてくれる人が増えたと思います。

岩

アーティストの方に入っていたいただいたことで、プログラム全体も少し変わっていったのかもしれないですね。

岩

DIYでつくった放送室ではありますが、放送局用のカメラを入れていましたし設備はちゃんとしてましたね。自分たちのメディアをつくろうと意気込んでいた気がします。

中

子どもたちとYouTubeごっこをして遊んだり、くると放送室のテーマソングを子どもたちが歌いだしたり、楽しかったですね。

飯

島の外に出てしまった子どもたちをつなぐとか、いろいろな企画を動かしたかったんですが、リソースに余裕がなくなかなか難しかったですね。やはりアイデアを実現するにはそれなりの体力や覚悟がいるんだな、と。

岩

### 岩沢兄弟

(いわざわひとし・たかし)

プロジェクトのディレクションを務めたクリエイターユニット。くるとの設計などを担当。

中

### 中村圭

一般社団法人シマクラス神津島代表理事。島生まれ島育ちで、Uターン経験者。

飯

### 飯島知代

一般社団法人シマクラス神津島理事。移住者。事務、運営、広報などを一手に担当。

※一般社団法人シマクラス神津島  
2020年10月12日設立。HAPPY  
TURN／神津島の運営などを行う。





くると盆栽づくり



(裏) 撮影 小野悠介





くると盆栽流し







景色から染まる色



(表) 撮影 岡桃子  
(裏) 撮影 五十嵐智行



# 景色から 染まる色



21

令和4(2022)年

1月15日(土) 16日(日)

午前の部 10:00-12:00

午後の部 13:30-15:30

## 島の植物や資源をつかって、草木染めをしてみよう

島の「景色」を彩る草木、水、風、土、人、あらゆる生き物たち。「染色」は、そんな生命の力を借りることで成り立ちます。島を歩いて植物や資源を探し、見て、触って、匂いを嗅いで、パリパリ、ぐつぐつ。草木染めを通して、五感で島の景色を感じる、美術家・山本愛子による染色ワークショップです

詳細・申込方法は裏面へ

# 景色から染まる色



アーティスト・プログラム in 神津島 / 山本愛子  
「景色から染まる色」フライヤー  
デザイン 村田萌葉「群落」

**会場** くると (東京都神津島村 998)

**定員** 各回 10名程度 (申込優先)

\* 当日飛び込みでの参加も可能ですが、混雑状況によってはお待ち頂く場合がございます。

**参加費** 無料

- アーティストが準備した布を染めます。また、1月15日、16日で使用する素材が異なる場合がございます。
- ご自身で染めたい布がございましたら持参可能です。  
(綿・麻・絹のみ。お一人Tシャツ1枚程度の大きさまで。)
- 汚れてもよい服装でお越しください。
- 当日の記録は、本事業の運営・広報に使用させていただきます。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。
- 雨天決行、荒天中止。

## 申込方法・お問い合わせ

HAPPY TURN / 神津島 事務局

【電話】 080-1346-2800 (木・金・土 10:00-16:00)

【メール】 info@shimaclass.tokyo

【来場】 事前に「くると」に来て予約する。

\* 「くると」 開室日は公式SNSをご覧ください。



Instagram

\* 個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内のみ使用します。

\* 本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。

\* プログラム内容は変更になる場合がございます。

## 山本愛子 やまもと あいこ

東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。平成30年度ゴーラ美術振興財団在外研修員として中国で研修。絹布、繭糸、天然染料などの自然素材及び廃材を用いて、ものの持つ土着性や記憶の在り処についてを主題とした作品を制作。アジアを中心としたフィールドリサーチと滞在制作を行うほか、自らが畑で育てた植物や生活圏に生息する野草から染料を生成することにも日々取り組む。主な展示に2021年「Under 35 2021」BankART KAIKO (横浜) 2019年「Pathos of Things」宝蔵蔵国際芸術村(台北)「交叉域」蘇州金鷄湖美術館(蘇州)など。



HAPPY TURN  
/ 神津島

「HAPPY TURN / 神津島」とは

様々な立場から島に関わる人とつながり、それぞれの暮らしや考え方を学び合うことで「幸せなターン」のかたちを探るプロジェクトです。

<http://happyturn-kozu.tokyo/>



ウェブサイト







撮影 五十嵐智行



HAPPY  
TURN

／神津島



# くると盆栽流し

アーティスト・プログラム in 神津島 / 大西健太郎

令和3(2021)年

日程変更しました！  
12月12日(日)  
10:00-12:00

## 島の素材でできた「くると盆栽」を村中に担いで行こう

砂浜の漂流物や島で集めた素材をつかって、アーティスト・大西健太郎さんと制作した「くると盆栽」。島の風景を詰め込んだ盆栽を、担いで村中に連れ出します。盆栽に島を案内するようにして歩きながら、改めて島の景色を眺めてみませんか？ 盆栽を担いで一緒に島を歩く大人と子供を募集します。ご自宅の近くや道端での見学も大歓迎。担いでいる姿や盆栽を置いている姿を見かけたらぜひお声掛けください。

詳細・申込方法は裏面へ

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人シマクラス神津島



アーティスト・プログラム in 神津島 / 大西健太郎

# くると盆栽流し



詳細は公式ウェブサイト、公式 SNS で順次紹介いたします。

**会場** くると (東京都神津島村 998) に集合

**定員** 20 名程度 (申込優先)

\* 当日の状況により参加制限を行う場合がございます。

**参加費** 無料

- 汚れてもよい服装でお越しください。
- 当日の記録は、本事業の運営・広報に使用される場合がございます。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。  
ご覧の皆様、ご参加される皆様におかれましても、マスクや手洗い、消毒等、  
感染症対策にご協力ください。
- 少雨決行、荒天中止。

## 申込方法・お問い合わせ

HAPPY TURN / 神津島 事務局

【電話】 080-1346-2800 (木・金・土 10:00-16:00)

【メール】 info@shimaclass.tokyo

【来場】 事前に「くると」に来て予約する。

\* 「くると」 開室日は公式 SNS をご覧ください。



Instagram

- \* 個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。
- \* 本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。
- \* プログラム内容は変更になる場合がございます。

## 大西健太郎 | おおにしけんたろう

東京藝術大学大学院先端芸術表現科修士後、東京 谷中界隈を活動拠点とし、まちなかでのダンスパフォーマンスシリーズ「風」を開始する。その場所 ひと 習慣の魅力と出会い「ころがおどる」ことを求めつづけるパフォーマンス。

2011年に、こども創作教室「ぐるぐるミックス」の立ち上げより、ファシリテーター、統括ディレクターを務める。2014年より「風と遊びの研究所」を開設。板橋区立小茂根福祉園にて他者との共同創作によってつくり出す参加型パフォーマンス「お」ダンス プロジェクト」を展開。2018年南米エクアドルにて「TURN-LA TOLA」の参加アーティストとして、地域住民と共同パフォーマンス「El Azabiro de La Tola」の公演をおこなう。



HAPPY TURN  
/ 神津島

「HAPPY TURN/神津島」とは  
様々な立場から島に関わる人とつながり、それぞれの暮らしや考え方を  
学び合うことで「幸せなターン」のかたちを探るプロジェクトです。

<http://happyturn-kozu.tokyo/>



ウェブサイト

アーティスト・プログラム in 神津島 / 大西健太郎  
「くると盆栽流し」フライヤー  
デザイン 村田萌菜「群落」

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用 2 再編集





21





(表) 撮影 岡桃子  
(裏) 撮影 小野悠介

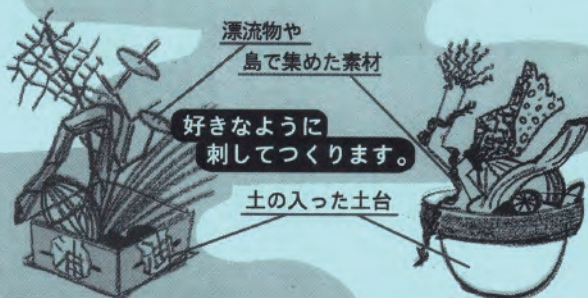


アーティスト・プログラム in 神津島 / 大西健太郎  
島の素材をあつめて工作しよう！

# くると盆栽ほんさい

ワークショップ  
参加者募集!!

砂浜に流れ着いた流木や貝殻、どこかの国の漂流物、庭の植物や木の実、島にはたくさんの面白い素材があります。島で集めた素材を土台に入れた土に自由にどんどん刺してつくるのが「くると盆栽」です。アーティストの大西健太郎さんと一緒にオリジナルの「くると盆栽」を作ってみませんか？作った盆栽はくるとに展示。12月11日（土）には盆栽を担いで村中に持ち出す「くると盆栽流し」を行います。



盆栽づくり開催日時 令和3年

11月27日(土)  
28日(日)  
各日 9:30~12:00

(両日同じプログラムです。どちらかの日程のみご参加ください。)

### くると盆栽日程

- ① 材料を集める (11/23~11/26)  
島の素材を探してくるとに集めます。  
みなさんからの持ち込み大歓迎！
- ② つくる【くると盆栽づくり】(11/27・11/28)  
土台に集まった素材を刺して、  
オリジナルの盆栽をつくります。
- ③ かざる (11/29~12/10)  
作った盆栽をくるとに展示します。  
是非見に来てください！  
盆栽づくりのみの参加もOK!
- ④ 持ち出す【くると盆栽流し】(12/11)  
くるとを飛び出し、村中に担いで行きます。

- 会場** くると(東京都神津島村 998)
- 定員** 各回5組程度(先着順)
- 対象** 4歳~(大人の参加も歓迎です)
- 参加費** 無料

- 汚れてもよい服装でお越しください。
  - 当日の記録は、本事業の運営・広報に使用される場合がございます。
  - 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。ご寛の皆様、ご参加される皆様におかれましても、マスクや手洗い、消毒等、感染症対策にご協力ください。
  - 少雨決行、荒天中止。
- 【ワークショップの後は、作った盆栽を村中に担いで行こう！】  
「くると盆栽流し」令和3年12月11日(土) 10:00~
- 「くると盆栽づくり」のみの参加も歓迎です。

### 申込方法・お問い合わせ

HAPPY TURN/神津島 事務局  
【電話】080-1346-2800  
(木・金・土 10:00-16:00)  
【メール】info@shimaclass.tokyo  
【来場】事前に「くると」に来て予約する。  
※「くると」開室日は公式SNSをご覧ください。

\*個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。  
\*本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。  
\*プログラム内容は変更になる場合がございます。



「HAPPY TURN/神津島」とは  
様々な立場から島に関わる人とつながり、それぞれの暮らしや考え方を  
学び合うことで「幸せなターン」のかたちを探るプロジェクトです。  
<http://happyturn-kozu.tokyo/>  
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人シマクラス神津島





# くるとのおらせ Vol.22

HAPPY  
TURN

／神津島

ヤマモト アイコ  
美術家 **山本 愛子**さんと、

令和3年9月発行

草木染めの実験をしました!

使った素材は「クチラ」

明日葉

かさんぽの葉っぱ  
カクレミノ

パッションフルーツ  
の皮

パッション  
フルーツの葉っぱ

様々な色に染まりました!  
大成エカ!!

10月のカレンダー 次回1月 来島予定です!

月	火	水	木	金	土	日
		⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

アクセス | 前浜海岸から徒歩6分、診療所近く(神津島村 998)  
くると | 木・金・土【10:00~16:00】 MANABU | 水【18:00~21:00】  
★どなたでも自由にお使いいただけます。フリー Wi-Fi ㊚  
問合せ | 080-1346-2800 (木・金 土 10:00~16:00)

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続き、  
ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

## 入場に関するお願い

- ◎入り口での手の消毒とマスク着用のご協力をお願いします。
- ◎2メートル程度距離をあけてお過ごしください。

## 下記に該当される方はご入場をお控えください

- ◎発熱のある方、少しでも体調が悪い方
- ◎過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方
- ◎感染拡大している地域や国への訪問歴が過去2週間以内にある方



ちぎた  
葉っぱを  
くぐく



のねんも染めました。

パフォーマー ケンタロウ  
オニシ

大西 健太郎さんが

くるとへ!! 庭びらきも一緒にやりまし



ワークショップ開催に  
向けてたくさん  
会議をしました。

次回11月来島予定です。  
☺ 何時でもは、おたのみ!!

## ゴウヅのゴウズ「ズ」

知の答え! 神津島村が誕生  
B. 約100年前でした。

島ができたのは100年以上前、  
黒曜石を求めて人が来たのは約2500年前  
人が住み始めたのは約5000年前(縄文)  
おたあじリヤが流されてきたのは約4000年前、  
現代の行政としての神津島村は、1923年に  
誕生し、今年10月1日で98周年となります。

## 事務局のつぶやき

くるとには日々いろいろなものが集まります。カーブ  
ミラーも、石臼も、リアカーも、実は全部もらいもの。  
そして集まったものが、こどもたちの遊び道具になっ  
たり、ワークショップの道具になったりしています。こ  
れからアーティストの大西さん、山本さんとのワーク  
ショップでも、こうやって材料を島の中から見つけたり、  
いただいたりできたらいね。それがくるとらしさかな。  
と話していました。いろんな人や場所のものが集まるっ  
てワクワクしますよね。材料募集の際はこのおらせ  
や SNS で告知しますので是非ご協力いただけると嬉  
しいです。ではまた。

事務局 イジマ

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人シマクラス神津島

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。



ウェブサイトは  
こちらです



〒118-0043  
東京都荒川区  
西日暮里1-1-1  
HAPPYTURN\_KOUZU

(表) アーティスト・プログラム in 神津島 / 大西健太郎  
「くると盆栽づくり」フライヤー  
(裏) 「くるとのおらせ」 Vol.22

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用紙再編集




# 2021 港はどっち？





前浜








多幸

飛行機運航

 さるびあ

 ジェット

 ひこうき

	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
					欠	欠	
					欠	欠	欠
	4	5	6	7	8	9	10
							
	欠	欠				欠	欠
	11	12	13	14	15	16	17
							
	欠			欠			
	18	19	20	21	22	23	24
							
							
	25	26	27	28	29	30	31
			欠				
							



2019

6月30日 旧万作商店の掃除



2021

6月 MANABU床剥がし、パテ、など



8月25日 旧店舗部分の掃除



1月15日 旧万作商店と、こたつ

2020

6月28日 岩沢兄弟・土田さんによる改修



6月29日 モニターやパソコンなどが設置される



10月14日 MANABU オープン



6月30日 MANABU+くと放送室の整備が完了



12月25日 くと放送室をつくるためのペンキ塗り



MANABUでの実験はつづく

(表)「港はどっち？」船と飛行機の運航記録  
(裏)二〇一九年から始まった旧万作商店の改装風景



4

5

## オリジナルメディア「やーい!～島をつなぐビデオレター～」制作スタート

2020年4月7日に東京で緊急事態宣言が発令され、身動きがとれないなかで「ビデオレター」の制作を開始。テレビ番組の編集経験をもつ小梨久美子とともに、島から離れてしまった4組の方々と撮影を実施し、神津3大グルメが発表されるなど多彩な動画がつけられた。昨年度くるとでライブを行ったCOINNが主題歌をつくるなど、これまでのつながりを活かした制作が進められた。

6

## 拠点「くると」再オープン（6/25）

新型コロナウイルスの感染拡大のため運営を停止していたくるとが4ヶ月ぶりにオープン。ソーシャルディスタンスを意識したレイアウトへと変わり、感染対策を行いながら拠点の運営を進めていくこととなった。

7

## 「七夕のたんざくを飾ろう」実施

コロナ禍にともなう拠点の休館により、今年度最初のイベントが行われた。感染対策に配慮しつつも、多くの人々が集まり賑わいを見せるイベントとなった。

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」公開（7/2）

制作されたビデオレター映像は、くるとで公開された。毎週木・金・土曜日の10～16時に、拠点エリアの旧万作商店のスペースを活用した大型のスクリーンで上映。拠点に来られない場合は、島内の方であればモニターと再生機器をもってデリバリー上映を行うなど、島ならではの届け方も考案された。

8

9

10

## 「MANABU」オープン（10/14）

これまでかたるたづくりやビデオレターの上映のために使用されてきた元商店を自習室「MANABU」へとリニューアル。毎週水曜日の18～21時にオープンし、家では集中しづらい学生や趣味・資格を勉強したい大人が集まる場所が生まれた。

## 第1回「島の庭びらき」開催（10/24）

拠点の大工小屋を解体し整備したことでこどもたちが遊べる庭が生まれたように、島内の庭や空き地の再利用する可能性を探る取り組み。第1回ではスピーカーと草刈り道具を積んだりヤカーを引いて島内を歩き、草刈りを進めた。途中からは観光客や地元の人々も飛び入りで参加し、思わぬ盛り上がりを見せるイベントとなった。

11

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」第2弾公開（11/17）

第1弾が好評だったことを受け、第2弾でも島にゆかりのある3組の撮影を実施。今回は第1回を見た人から「立候補やーい!」が届くなど、さらなる広がりを見せた。

## 第2回「島の庭びらき」開催（11/28）

今回もリヤカーを引きながら島内を歩き回り、草刈りを実施。小中学生や親子も参加し、草刈りが終わったあとにはピクニックも行われるなど、交流の場としても機能した。

12

1

## コウヅノコウズ vol.1「花正月」発刊

神津島の文化・風土・風習をもっと知るためのコンテンツを発信するプロジェクト。「神津島（こうづ）を成している構図（こうず）を調べていき、いくところ好事人（こうずじん）になろう!」をコンセプトに、vol.1では花正月をテーマとして取り上げた。

2

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」第3弾公開（2/20）

第1弾・第2弾と好評を博したビデオレター企画、第3弾は島にゆかりのある2名の方々からのビデオレターに加え、成人式で島に帰ってきた新成人の撮影も行われた。

3

## 「くると放送室」開室に向けて改装準備がスタート

岩沢兄弟、土田誠、池田匠のメンバーで自習室「MANABU」を配信やオンライン会議のためのスペース「くると放送室」へと拡張すべく、機材の設置やテストが行われた。このタイミングに合わせて、壁の一部が映像合成用にグリーンに変わった。



# 書き込み式！現場の声をあつめたプロジェクトプロジェクต์当事者年表

4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
1  
2  
3

## オリジナルメディア「やーい!～島をつなぐビデオレター～」制作スタート

2020年4月7日に東京で緊急事態宣言が発令され、身動きがとれないなかで「ビデオレター」の制作を開始。テレビ番組の編集経験をもつ小梨久美子とともに、島から離れてしまった4組の方々と撮影を実施し、神津3大グルメが発表されるなど多彩な動画がつけられた。昨年度くるとでライブを行ったCOINNが主題歌をつくるなど、これまでのつながりを活かした制作が進められた。

## 拠点「くると」再オープン (6/25)

新型コロナウイルスの感染拡大のため運営を停止していたくるとが4ヶ月ぶりにオープン。ソーシャルディスタンスを意識したレイアウトへと変わり、感染対策を行いながら拠点の運営を進めていくこととなった。

## 「七夕のたんざくを飾ろう」実施

コロナ禍にともなう拠点の休館により、今年度最初のイベントが行われた。感染対策に配慮しつつも、多くの人々が集まり賑わいを見せるイベントとなった。

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」公開 (7/2)

制作されたビデオレター映像は、くるとで公開された。毎週木・金・土曜日の10～16時に、拠点エリアの旧万作商店のスペースを活用した大型のスクリーンで上映。拠点に来られない場合は、島内の方であればモニターと再生機器をもってデリバリー上映を行うなど、島ならではの届け方も考案された。

## 「MANABU」オープン (10/14)

これまでかたるづくりやビデオレターの上映のために使用されてきた元商店を自習室「MANABU」へとリニューアル。毎週水曜日の18～21時にオープンし、家では集中しづらい学生や趣味・資格を勉強したい大人が集まる場所が生まれた。

## 第1回「島の庭びらき」開催 (10/24)

拠点の大工小屋を解体し整備したことで子どもたちが遊べる庭が生まれたように、島内の庭や空き地の再利用の可能性を探る取り組み。第1回ではスピーカーと草刈り道具を積んだリヤカーを引いて島内を歩き、草刈りを進めた。途中からは観光客や地元の人々も飛び入りで参加し、思わぬ盛り上がりを見せるイベントとなった。

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」第2弾公開 (11/17)

第1弾が好評だったことを受け、第2弾でも島にゆかりのある3組の撮影を実施。今回は第1回を見た人から「立候補やーい!」が届くなど、さらなる広がりを見せた。

## 第2回「島の庭びらき」開催 (11/28)

今回もリヤカーを引きながら島内を歩き回り、草刈りを実施。小中学生や親子も参加し、草刈りが終わったあとにはピクニックも行われるなど、交流の場としても機能した。

## コウゾノコウズ vol.1「花正月」発刊

神津島の文化・風土・風習をもっと知るためのコンテンツを発信するプロジェクト。「神津島 (こうづ) を成している構因 (こうず) を調べていき、いくところ好事人 (こうずじん) になろう!」をコンセプトに、vol.1では花正月をテーマとして取り上げた。

## 「やーい!～島をつなぐビデオレター～」第3弾公開 (2/20)

第1弾・第2弾と好評を博したビデオレター企画、第3弾は島にゆかりのある2名の方々からのビデオレターに加え、成人式で島に帰ってきた新成人の撮影も行われた。

## 「くると放送室」開室に向けて改装準備がスタート

岩沢兄弟、土田誠、池田匠のメンバーで自習室「MANABU」を配信やオンライン会議のためのスペース「くると放送室」へと拡張すべく、機材の設置やテストが行われた。このタイミングに合わせて、壁の一部が映像合成用にグリーンに変わった。

飯  
飯

なしこ (小梨久美子) とは、わたしが海の家で働いていたときに会いました。動画編集の経験のある彼女が移住して暮らしていたからこそ、高いクオリティの動画が出来上がったと思います。

中村は以前から島外の人ともつながりたい気持ちが強かったと思います。神津島ファンクラブみたいな体裁で島外に出た人たちに毎年ファンレターを送るという構想もあったんですが、神津TVのような仕組みをもっと活用できないかという発想からビデオレターの企画が生まれました。すごい企画になったと思うんですが、実際につくるときはわかりやすさとリアリティのバランスをとるのが難しくもありました。

## 「ゲストハウス テラマチ」運営開始

昨年度の台風で屋根が吹き飛んだ母屋の改修が完了し、ゲストハウスとしてHAPPY TURN/神津島から独立して運営を開始。2段ベッドをメインに定員3名、4名、6名の3部屋を提供。ゲストの宿泊リクエストに応じて、ミックスドミトリー、同性専用ドミトリー、個室扱いの部屋をアレンジしている。

中

ぼくが言い出しっぺの企画なんですが、やりはじめたら大変でしたね。面白くしようとするけどどんどん制作時間も増えるしお金も足りなくなってしまうし、映像に映り込む人の許可取りにも時間がかかりました。内容の都合上、上映は島内に限られてしまっていたので、一生懸命つくったのにあまり多くの人に届けられなかったのが少し残念ではありました。

中

中高生が自習しつつ大人と出会って新たな知識を学べる場をつくりたかったんですよね。

飯

中高生だけでなく資格について勉強する大人も来てくれたけれど、そこまで積極的な交流は生み出せなかったかもしれないです。

飯

イベントを企画しようとしても十分に換気できない場所では開催が難しかったので、屋外の企画を考えていました。くるとを運営するなかで、場所をつくれれば何か変化していくことがわかってきたので、まずは空いている場所を探して何かやってみようとしてましたね。

中

島の中には誰が管理しているかわかりにくい土地もあるので、草刈りをきっかけにしてつながりをつくれたらと思ってたんです。

岩

中村さんは子どもに人気があるから、ハーメルンの笛吹き男みたいな感じで子どもを引き連れながら歩いてたよね。

飯

コロナが広がっていたこともあって、島の庭びらきはほかのイベントと違って、そこまで大々的に告知せず実施していましたね。もちろんSNSなどでは告知してはいたんですが、フライヤーをたくさんつくって配布するようなことはしていませんでした。

中

A4で1枚に収まる範囲で情報をまとめ、「デアゴスティーニ」のように少しずつ島の歴史や文化を積み上げていこうなものをつくりたかったんですよね。結局、単体としては第2弾で止まって、『くるとのおしらせ』に掲載の場を移しました。

## 【アーツカウンシル東京 担当プログラムオフィサーのひとこと】

この1年間、HAPPY TURN/神津島チームは「なにものでもない場所」であることに悩み、踏みとどまり、不確かなことに向き合い続けました。その結果、くるとの「はらっぱ」に人々が行き交い、創造の種が乗せられる場所へと変わっていく経験をしました。(大内伸輔)



全文はこちら

やー!!!

島むなぐセテオシター



だい 第3弾! だん



みなさんがこの先もずっと  
つながり続けますように



20

くると再オープンの準備








再オープン後の七夕イベント



オープン  
再開月 

ルール オープン日は、必ず書きましょう。  
オープン日だけでなく、気づいたことや記録に残したいことがあったら、書きましょう。

記入者 佐々木美紗




日付 6月18日(木)

天気 曇りの雨

- オープン
- 床掃き
  - 整理整頓
  - トイレ掃除
  - まんさく開ける
  - 芝生水まき
  - 外壁洗い(木)
  - 黒板消し(木)
  - 冷水機(夏季)
  - 猫の糞とり

- クローズ
- 地図机の上何も無い
  - 接岸率シール貼り
  - 書棚の施錠
  - まんさく戸締り(窓・猫)
  - 火の始末
  - 消灯(常夜灯ON)
  - なみすけ戸締り

来場者数 16人

今日の気分 圭  知代  みさ 

よかったこと/  
改善できること 圭トラの金鍵板にて安全に。

ヒヤリハット 子どもたちだけで圭トラ。道路わきにゴミをケンね。

申し送り/  
もらったもの かずたか兄、そうたろう君/キニモ

9:00

10:00 ×ダカ2匹 おせいなしー 母の元へ☆

11:00

12:00 かずたか兄

13:00 羊本さん(日本イタリアス) 林さん 久の黒光 トラゴ

14:00 なとちゃん とうたろうくん < キニモ大量 おいごさー君 >

15:00 ごんじー 冷蔵庫のワカと!

16:00 宮崎ファミリー③ 川崎親子② 小原ちゃん親子② そうちゃん(12)

17:00 (あうたくん) ゆいちゃん あひちゃん (12)

感想 久保りのオープンで賑やかな！ 林さんと久保りに話せて。 ×ダカも女子音平で良かった。 大きくなってほいほい。 キニモ大量!! 金鑰の 飛行機モ判り明☆



# MANSAKU→MANABU



旧万作商店を片付け、自習室 MANABU をオープン

# 庭びらき



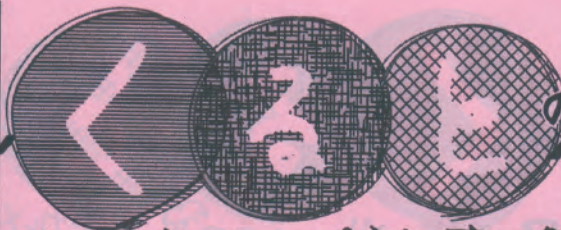
空き家の庭の草かりをする「庭びらき」

(表) 「くるとの日々の記録」(6/18分)  
 (裏) 「島の庭びらきプロジェクト」の様子  
 旧万作商店から MANABU への改装

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用い再編集



HAPPY  
TURN  
/ 神津島



のお知らせ Vol.7

令和2年6月発行

約4か月ぶり! くるとオープン再開しました!



◎入場に関するお願い◎

- ◎入り口での手の消毒とマスク着用のご協力をお願いします。
- ◎2メートル程度距離をあけてお過ごください。
- ◎下記に該当される方はご入場をお控えください◎
- ◎発熱のある方
- ◎過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方
- ◎感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方
- ◎少しでも体調が悪い方

おしらせ!! HAPPY TURN/神津島  
NEWメディア企画 女台重カ!!  
「やーい!!」  
~島をつなぐビデオレター~  
島にゆかりのある方々から、島にいる方へビデオレターをもらい、約15分の映像をついています!!  
♪♪「やーい」  
オリジナルのテーマ曲もつくりまけた。  
作曲は、1月にくるとで「コンサートをしたかった」  
「キッズミュージックバンド」COINNのみなさん!  
くるとは、7月初旬公開予定です!!  
詳細は、決まり次第お知らせ致します。ぜひ! 見にいってください!

くると 7月 カレンダー

日	月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

アクセス | 前浜海岸から徒歩6分、神津島村診療所近く(東京都神津島村998)  
オープン | 木・金・土【10:00~16:00】  
★どなたでも自由にお使いいただけます。飲食可 🍷 フリー Wi-Fi 📶  
問い合わせ | 080-1346-2800 (オープン時のみ)  
※内容は変更になる場合があります

じまきよくのつばやき

自営業を経て約4か月ぶりに再開した拠点くると。早速、元気なこどもたちがやってきて、黒板や庭で遊ぶ姿がみられました。くるとをクローズするときは長袖だったのに、すっかりみんな半袖だなど、気づけば暑が過ぎ、夏もすぐそこ。なみなみスケルトンのくるとは、暑くて暑くて、只今暑さ対策の研究をスタートさせたところ。さて、この自営業期間中に進めてきたメディア企画「やーい!~島をつなぐビデオレター~」のお知らせを今回やっと出すことができました!!あと少しで上映開始となります。島を出た人たちが今何しているんだろう?と、ちょっと懐かしく思うことはありませんか?今回は島で暮らしていた懐かしい4組のみなさんから、近況報告とメッセージを集めました。撮影はすべてオンラインです。コロナの状況下で本土との行き来がなかなかできないことをヒントに、生まれた企画です。是非とも見に来ていただき、ご意見ご感想を教えてください。お待ちしております。ますます暑くなりますが、皆様引き続き体調管理に気を付けて、夏を迎えましょう!

事務局 イシマ

主催 | 東京都、公益財団法人東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
NPO 法人神津島盛り上げ  
※本事業は「東京アートポイン

ミストラル / ピザトースト

手茶 / 今日細のしゅびしゅび





今年度最終号!!

HAPPY TURN

／神津島

くると

のおらせ Vol.16

2020年度のHAPPY TURN! 令和3年3月発行

中村まさる 3/25(木)~

「いよいよくると?」公開です!

やー!! 第3弾、島もたぐビデオショー

オンライン限定公開を続けていた、島外と島内の人もたぐビデオショー企画第3弾がくるとの再開に伴い、島内上映を開始します!

①島の庭びらきをしましょ!

空き家の庭の草刈りを2箇所行いました。二箇所の方で、ここは立ちを爺加しれました。空き家の使われていない庭を開くことで、村中が...

②「せーい!」島もたぐ第3弾では成人式の撮影も!

新成人の一言(ハネコ)。自分が成人して10年ほど前は... 何を考えていたかと思いき、その時には想像できなかった今を...



くると 4月 カレンダー (080-1346-2800)

Calendar table with columns for days of the week and dates. Includes MANABU (自習室) times: ① 10:00~16:00, ② 18:00~21:00, ③ 10:00~16:00, ④ 18:00~21:00.

③ 自習室MANABUのオープン!

場所を作るスタートは片手から! というところ、元石作商店の片付けを、自習室をふりました。学びスト(仲間)と出会い、勉強し自分もとある資格をとることができました。来年度も一緒に学びましょ!

じまきよくのつばき

緊急事態宣言が更に延長され、くるとの再開も延期となりました。そうこうしている間に、高校や中学校の卒業式が行われ、新しい生活のために島外に出る学生さんを何人か見送ることとなりました。島の皆さんが「応援しているよ! 行ってらっしゃい!」という気持ちと、「何かあったらいつでも帰っておいで!」という気持ちで内地に向かう皆さんを見送る船出の光景に、私はいつも感動してしまいます。行き交う目には見えない皆さんの気持ちが、あの、カラフルな紙テープに見えて、東になって一人ひとりの胸に向かっていく気がします。島で生活してできたそんな皆さんの繋がりが、ぱたっとゼロに切れないように、HAPPY TURN / 神津島のプロジェクトとしてできることがあればいいなと思わずにはいられませんでした。さて、今年度もHAPPY TURN / 神津島のプロジェクトにご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。ここであつご報告がごさいます。NPO 法人神津島盛り上げ隊、は3月をもって解散することとなりました。NPO 法人としての事業は一度終わりを迎えますが、HAPPY TURN / 神津島プロジェクトは新しい法人が引き継ぎ、変わらず続いていきます。来年度もどうぞよろしく願い致します。ではまた来月 事務局 イジマ

アクセス | 前浜海岸から徒歩6分、神津島村診療所近く(神津島村998) くると | 木 金 土 [10:00~16:00] MANABU | 水 [18:00~21:00] ★どなたでも自由にお使いいただけます。フリー Wi-Fi 無料 | 080-1346-2800 (木 金 土 10:00~16:00)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続きご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

- ◎入場に関するお願い◎
◎入り口での手の消毒とマスク着用のご協力をお願いします。
◎2メートル程度距離をあけてお過ごしてください。
◎下記に該当される方はご入場をお控えください◎
◎発熱のある方、少しでも体調が悪い方
◎過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方
◎感染拡大している地域や国への訪問歴が過去2週間以内にある方

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、NPO 法人神津島盛り上げ隊
※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。



THE FUTURE IS ART Tokyo.Tokyo FESTIVAL

HAPPY TURN / 神津島



ウェブサイト、インスタグラム、フェイスブック

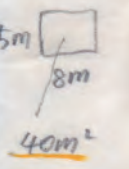
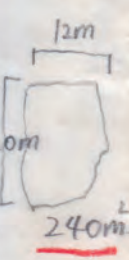
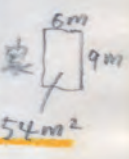
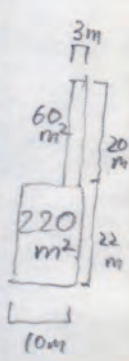
表紙 「くるとのつばき」 Vol.16

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用紙再編集





280m<sup>2</sup>



秀高 / 金日嗣のしゃがしゃが  
 ちょうちん / チャーハン

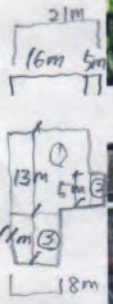
10

S=1/500



500  
100

16  
13  
48  
16  
208  
88  
296

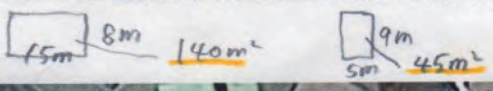


- ① 208m<sup>2</sup>
  - ② 25m<sup>2</sup>
  - ③ 88m<sup>2</sup>
- 296m<sup>2</sup>

- ① 130m<sup>2</sup>
  - ② 36m<sup>2</sup>
  - ③ 24m<sup>2</sup>
  - ④ 56m<sup>2</sup>
  - ⑤ 56m<sup>2</sup>
- 302m<sup>2</sup>



14  
4  
56



2

8

空き家の場所と面積に関するリサーチメモ  
協力 杉山由香・榎永絵理子・神崎夏子

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用リサーチ編集



# ← 2019年度（2019年4月～2020年3月）

4

## 展示企画『大工小屋を眺めてみる。』開催（4/26～5/12）

かつて中華料理屋だった「店舗」、大工の作業場所だった「大工小屋」、その一家が暮らしていた「母屋」——当時の活動拠点のまわりには、3つの建物があった。本展は、大工小屋の解体に際して行われたもので、30年近く使われていなかった小屋の大掃除の末、1台の作業機械だけが室内に残されて展示された。

5

## 大工小屋の解体（5/13～）

『大工小屋を眺めてみる。』を経て、大工小屋は完全に解体されることになった。活動拠点には広い庭が生まれ、今後このスペースは遊び場や交流の場などさまざまな機会が使われていくようになる。

6

## 拠点正式オープン（6/2）

「HAPPY TURN／神津島」の拠点が正式にオープン。この時点では「くると」という名称も決まっておらず、毎週金～月にかけて店舗だったスペースが開放されていたほか、母屋の1Fもフリースペースとして自由に利用できるようになっていた。

## 拠点の黒板づくり（6/2～）

島の情報が集まる掲示板が欲しいという声の高まりを受け、車庫部分の壁をすべて黒板にする企画が行われた。壁の上に貼った板に黒板塗料を塗ることで、大きな黒板が完成。この黒板は以降、情報発信に使われることはもちろんのこと、こどもたちが落書きを楽しむ場所にもなった。

7

8

## 拠点の庭の竹垣づくりを開始（8/5）

大工小屋跡地の広い庭でこどもが自由に遊べるように、庭を囲う竹垣づくりがスタート。山へ行き竹を切り出すことから作業ははじまり、島民のみならず島外の学生ボランティアらの協力も得ながら竹垣づくりは進んでいった。竹垣が完成したのは2020年3月と、7ヶ月におよぶビッグプロジェクトへ発展した。

## 村おこしNPO法人ECOFFの学生ボランティア受け入れ（8/8～）

大学生ボランティアを受け入れはじめ、定期的に大学生を受け入れながら拠点の活動が行われた。拠点の店番や清掃から金目鯛の箱詰め作業、パッションフルーツの加工準備、竹の伐採など、その作業は多岐にわたる。ウェブサイトでは当時の大学生によるブログも公開されている。

9

## 台風15号により母屋の屋根が吹き飛ばす（9/9）

台風15号により拠点に隣接する母屋の屋根が吹き飛び、安全確認のため拠点全体としても一時的に休館を余儀なくされる。翌日、まずは母屋にブルーシートを被せて応急処置を施し、そこから1ヶ月かけて屋根の修理を進めることとなる。活動再開に向けた作業にはかなりの労力を要した。

10

## 屋根の修理が完了し、拠点再オープン（10/24）

無事屋根の修理も完了し、東京から来島したスタッフが拠点部分の内装を仕上げ、再オープン。拠点のオープン日が木・金・土の3日間になる。竹垣の制作は継続していくほか、より多くの人に使ってもらえるよう日々の試行錯誤を重ねられていくこととなる。

11

## 『くるとのおしらせ』第1号発行（11/29）

拠点での活動報告や告知、島の情報を発信するチラシメディア『くるとのおしらせ』が誕生。以降、基本的には毎月刊行され、事務局によるエッセイも掲載された。現在に至るまで発行が続いており、「HAPPY TURN／神津島」の活動を知るうえで欠かせないメディアとなっていく。

## 拠点名「くると」正式発表（11/30）

「来ると、遊べる」「来ると、学べる」など、来ることでも何か新たな出会いが生まれる場へと成長することを期待し拠点の名称が「くると」に決定。「くるとターンする」など「HAPPY TURN」というプロジェクト名とも縁のある名称が選ばれた。その他の候補として「ラッキーポイント」「ぶらっとほーと」などもあったという。

12

## 「くるとのイスづくりワークショップ」実施（12/26～28）

コーラのプラスチックケースに脚をつけ、イスを製作。参加したこどもたちは脚にペンキで海や波を思わせるイラストを描き一人ひとり異なるイスがつくられた。

1

## くるとで音楽を聞こう「新春!くると音楽会」開催（1/12）

4人組のチルドレンミュージックバンド「COINN」を招き、ライブイベントを開催。当日は老若男女を問わず多くの人々が集まり、にぎやかなイベントとなった。以降、くるとでは島外のアーティストを招いた取り組みも本格的に行われていくようになる。

## く・る・とかるたづくり（1/18）

読み札が「く」「る」「と」だけの、くるとかるたをつくるイベントを開催。「とっても星がきれいだよ ありま天文台」「とってもとってもはえてくる明日葉」「ときどきやってるまつむらのとくばい!」など、神津島の観光的な魅力を伝えるものから日常風景を描くものまで、さまざまなかるたの読み札がつくられた。

2

3

# 2018年度（2018年4月～2019年3月）→



# 書き込み式！現場の声をあつめたプロジェクト当事者年表

4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
1  
2  
3

## 展示企画『大工小屋を眺めてみる。』開催 (4/26~5/12)

かつて中華料理屋だった「店舗」、大工の作業場所だった「大工小屋」、その一家が暮らしていた「母屋」——当時の活動拠点のまわりには、3つの建物があつた。**本展**は、大工小屋の解体に際して行われたもので、30年近く使われていなかった小屋の大掃除の末、1台の作業機械だけが室内に残されて展示された。

## 大工小屋の解体 (5/13~)

『大工小屋を眺めてみる。』を経て、大工小屋は完全に解体されることとなった。活動拠点には広い庭が生まれ、今後このスペースは遊び場や交流の場などさまざまな機会が使われていくようになる。

## 拠点正式オープン (6/2)

「HAPPY TURN／神津島」の拠点が正式にオープン。この時点では「くると」という名称も決まっておらず、毎週金~月にかけて店舗だったスペースが開放されていたほか、母屋の1Fもフリースペースとして自由に利用できるようになっていた。

## 拠点の黒板づくり (6/2~)

島の情報が集まる掲示板が欲しいという声の高まりを受け、車庫部分の壁をすべて黒板にする企画が行われた。壁の上に貼った板に黒板塗料を塗ることで、大きな黒板が完成。この黒板は以降、情報発信に使われることはもちろんのこと、こどもたちが落書きを楽しむ場所にもなった。

## 拠点の庭の竹垣づくりを開始 (8/5)

大工小屋跡地の広い庭でこどもが自由に遊べるように、庭を囲う竹垣づくりがスタート。山へ行き竹を切り出すことから作業は始まり、島民のみならず島外の学生ボランティアらの協力も得ながら竹垣づくりは進んでいった。竹垣が完成したのは2020年3月と、7ヶ月におよぶビッグプロジェクトへ発展した。

## 村おこしNPO法人ECOFFの学生ボランティア受け入れ (8/8~)

大学生ボランティアを受け入れはじめ、定期的に大学生を受け入れながら拠点の活動が行われた。拠点の店番や清掃から金目鯛の箱詰め作業、パッションフルーツの加工準備、竹の伐採など、その作業は多岐にわたる。ウェブサイトでは当時の大学生によるブログも公開されている。

## 台風15号により母屋の屋根が吹き飛ばす (9/9)

台風15号により拠点に隣接する母屋の屋根が吹き飛び、安全確認のため拠点全体としても一時的に休館を余儀なくされる。翌日、まずは母屋にブルーシートを被せて応急処置を施し、そこから1ヶ月かけて屋根の修理を進めることとなる。活動再開に向けた作業にはかなりの労力を要した。

## 屋根の修理が完了し、拠点再オープン (10/24)

無事屋根の修理も完了し、東京から来島したスタッフが拠点部分の内装を仕上げ、再オープン。拠点のオープン日が木・金・土の3日間になる。竹垣の制作は継続していくほか、より多くの人に使ってもらえるよう日々の試行錯誤を重ねられていくこととなる。

## 『くるとのおしらせ』第1号発行 (11/29)

拠点での活動報告や告知、島の情報を発信するチラシメディア『くるとのおしらせ』が誕生。以降、基本的には毎月刊行され、事務局によるエッセイも掲載された。現在に至るまで発行が続いており、「HAPPY TURN／神津島」の活動を知るうえで欠かせないメディアとなっている。

## 拠点名「くると」正式発表 (11/30)

「来ると、遊べる」「来ると、学べる」など、来ることでも何か新たな出会いが生まれる場へと成長することを期待し拠点の名称が「くると」に決定。「くるとターンする」など「HAPPY TURN」というプロジェクト名とも縁のある名称が選ばれた。その他の候補として「ラッキーポイント」「ぶらっとぼーと」などもあったという。

## 「くるとのイズづくりワークショップ」実施 (12/26~28)

コーラのプラスチックケースに脚をつけ、イズを製作。参加したこどもたちは脚にペンキで海や波を思わせるイラストを描き一人ひとり異なるイズがつけられた。

## くるとで音楽を聞こう「新春!くると音楽会」開催 (1/12)

4人組のチルドレンミュージックバンド「COINN」を招き、ライブイベントを開催。当日は老若男女を問わず多くの人々が集まり、にぎやかなイベントとなった。以降、くるとでは島外のアーティストを招いた取り組みも本格的に行われていくようになる。

## く・る・とかるたづくり (1/18)

読み札が「く」「る」「と」だけの、くるとかるたをつくるイベントを開催。「とっても星がきれいだよありま天文台」「ととてもとてもはえてくる明日葉」「ときどきやってるまつむらのとくばい!」など、神津島の観光的な魅力を伝えるものから日常風景を描くものまで、さまざまなかるたの読み札がつけられた。

岩

ただ大工小屋を解体するだけではなく、解体する際に出てきたものを展示する企画にできないかと考えたんです。こうしたアートプロジェクトって、島にあるものを勝手につくりかえていくものだと地元の方から思われてしまうこともあるので、きちんと建物やそこに住んでいた人の歴史に向き合っ、つくりかえていくという姿勢を表現したかったんですね。

飯

当時はあまり意識していなかったんですが、今になって思うと、きちんと自分たちで解体の過程を見ておけたのはよかったですね。もともとそこに何があつたのか、どんな人が住んでいたのか自分の言葉で話せるのは大切なことなんだと思います。

岩

こうしたプロジェクトにおいては、島の人との共通言語をつくることも大事ですね。何かプロジェクトを立ち上げても、その意味をきちんと「翻訳」して伝える人がいないとたいい失敗してしまうから。

飯

説明しづらいプロジェクトに取り組んでいくなかで、そもそも日本の人は「目的」がないことに耐えられないのかも気づかされました。私はもともと教員だったんですが、授業も最初に目的を設定するし、みんな目的をはっきりさせる勉強しか経験していないから「何のためかよくわからないものをつくります」みたいなことに慣れていない。でも、一見目的のないことに取り組んでみることで違う価値を見つけられることもあるんだなと体感していった気がします。

中

最初から週4で開けよう決めていたわけじゃなくて、どれくらい開けていくか議論しながら考えてましたね。完成を待っているといつまで経っても何も動かないから、とにかく開けよう、と。

飯

この頃はよく喧嘩していた気がしますね。締め切りを守る／守らないみたいな話もあつたし、経理の作業がすごく大変でうまく回らなくなってしまって。人間、ふたりだけだと絶対揉めてしまうから、3人いないとダメだなんて思いました。

岩

どうすれば中村圭が溜めているタスクを消化できるか、いろいろアイデアを出してましたね。風船にタスクを書いて終了したら割るとか、軽トラの車体にタスクが書かれた養生テープを貼って「タスクカー」という名で島を走らせていたときもあった。結局、軽トラのタイヤがパンクしてタスク未消化でプロジェクトがパンクしかけるというオチが付いてたね……。

中

これはもう相当大変でしたね。

飯

この頃は母屋に住んでいたのも、めちゃくちゃ大変でした。ブルーシートを被せて暮らし続けるっていう。結局屋根の改修のために母屋を出て、パン屋さんがあつた物件の一部屋を借りて暮らすようになりました。

飯

この時期はやりたいことがいろいろあるけど企画に移せず悩んでいた時期でもありました。そもそも私自身「アートプロジェクト」が何なのかよくわかっていなかったんで、何がダメで何がOKなのか判断基準がわからないんですね。アーツカウンシル東京の仕組みを活用しながらどこまでできるのか、とにかく試行錯誤を繰り返してました。

飯

ライブを行うために何が必要なのかさえわからないところから準備を進めたのでバタバタでしたね……でも、COINNのライブはめちゃくちゃよかったです。ライブがきっかけで初めて来てくれた人もいましたし、あるおばあちゃんがCDを買うためにわざわざ家にお金を取りに戻ってくれたのも印象的でした。拠点のイメージも「よくわからない場所」から「こどもが自由に遊びに行ける場所」みたいなものになってきたと思います。

中

拠点オープンから時間が経っていくなかで、島の方からの警戒も薄まってきたのかなと思います。とくにこどもは気軽に来てくれるようになりましたね。雨の日に遊べる場所ができたという認識が生まれ、どんどん遊んでいい場所として知られるようになったんです。そうなるように自分たちが狙っていたわけじゃないんですけど。

飯

この頃はとにかくやらなきゃいけないことがいっぱいあって、事務局内でぶつかることが増えていました。なんとなくマンパワーで乗り切っていましたが、もはや誰が何のタスクを抱えているのかさえわからなくなってしまっていて、プログラムオフィサーの方やほかのスタッフの力を借りながら整理していましたね。

岩

### 岩沢兄弟 (いわさわひとし・たかし)

プロジェクトのディレクションを務めたクリエイターユニット。くるとの設計などを担当。

中

### 中村圭

一般社団法人シマクラス神津島代表理事。島生まれ島育ちで、Uターン経験者。

飯

### 飯島知代

一般社団法人シマクラス神津島理事。移住者。事務、運営、広報などを一手に担う。

※一般社団法人シマクラス神津島 2020年10月12日設立。HAPPY TURN／神津島の運営などを行う。

パトリック









撮影  
ただ(ゆかい)

くると竣工写真





大工小屋





(表) 撮影 小野悠介



## 『大工小屋を眺めてみる』

みなさんが眺めている「大工小屋」は  
関新一さんが大工仕事をするために建てたものです。

昭和23年に神津島で生まれた関新一さんは、  
学校を卒業後、島を出て  
静岡県清水市で大工修行をされ、  
島に戻ってきてから、大工として活動されました。

いまから30年ほど前に、大工仕事をするために  
再び島を出られて、  
そこから「大工小屋」は使われていなかったそうです。

「大工小屋」に関する資料は少なく、  
店舗と住宅を建てられた昭和59年時点で、すでに存在していたようです。  
おそらく、飼育小屋として使われていたスペースを解体後、  
自宅と店舗を建てるための作業場として作られたと考えられます。

この「大工小屋」で関新一さんが活動していた頃には、  
小屋の中には、多くの道具や機械が並び、島の家々の木材が加工され  
運び出されていたはずですが、  
しかし、昨年、私たちが中を見たときには、棚は崩れ、廃墟のような状態でした。

今回の展示後には、解体されてしまう大工小屋。

廃墟だった「大工小屋」を片付けていくうちに見えてきたのは、  
関新一さんの大工として活動を示す、小さな痕跡達でした。  
多くの人の手を借りながら、片付けを行い、  
「大工小屋」の床が見え、光が入り、空気が流れるようになりました。  
そして、図面を書いていたであろう2階の小部屋は  
秘密基地として、島の子どもたちが集まる様子が見られました。



## 『大工小屋を眺めてみる』を眺める8つの視点

- 1 1984年6月のカレンダー  
いまから30年ほど前に島を離れたという関新一さん。  
カレンダーの時間は35年前のまま、時がとまっていました。
- 2 手押し一輪車と丸ノコ  
関新一さんが使用していた手押しの一輪車。違和感をお楽しみください。
- 3 ブルーシート  
白ベンキが飛び散ったブルーシート。
- 4 鉋屑  
かんなくず  
大型工作機械に残っていた、約30年もの月日を経ている鉋屑。
- 5 大工道具  
大工小屋から出てきた、関新一さんの道具たち。
- 6 大型工作機械  
大工小屋に残された、白く塗られた大型工作機械。  
じっくりとご鑑賞ください。
- 7 小部屋  
大工日記や吸っていただろろうタバコ、設計図、カセットテープ。関新一さんにとってここはどのような場所だったのだろう。  
小屋を掃除する中で、子どもたちはこの部屋を秘密基地として使い始めました。  
窓際には、彼らが大工小屋で見つけてきた消しゴムやスプーンが残されています。
- 8 欄間  
らんま  
関新一さんが制作した欄間です。屋外から大型工作機械を眺めてみると、不思議な感覚を覚えるフレームに。

### 『大工小屋を眺めてみる』

日程 平成31年(2019年)4月26日(金)~令和元年(2019年)5月12日(日)

※会期中の金 土 日 月のみ

時間 11:00~17:00

※5月12日(日)のみ13:00~となります。ご了承ください。

場所 旧 常吉亭(東京都神津島村998)

企画 空間構成 岩沢兄弟

主催 東京都、

アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

NPO法人神津島盛り上げ隊



1/12  
(日)

新春!!

# くると音楽会

チルドレンミュージックバンド

## COINN

コイン

が

### 神津島

に



## やってくる!



2020年最初のイベント! おとなも、子どももみんなと一緒に音楽を聞こう!  
チルドレンミュージックバンド「COINN」による新春くると音楽会を開催します♪

…日時…

1/12 (日) 9:30 開場  
10:00 ~ 11:00

…会場…

くると (神津島村 998)

◎入場料無料

◎申込者優先  
(締切 1/11)

◎当日ふらっと参加することもできますが、  
申し込みいただいた方は優先的に入場できます。

### 申し込み方法

- ① 電話 080-1346-2800  
受付 (10:00 ~ 16:00)
- ② Instagram DM より  
ID [happyturn\_kouzu]
- ③ くるとに直接来て予約  
1/9 (木) ~ 1/11 (土)

★是非ご家族そろってお越しください♪

主催 | 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
NPO 法人神津島盛り上げ隊  
※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。  
※いただいた個人情報は適切に管理し、本事業のお知らせのみに使用します。







(表) 「新春〜くると音楽会」フライヤー  
 (裏) 音楽会の様子



# HAPPY TURN

／神津島

# くると

スタート  
号  
のおらせ Vol.1  
元年11月発行

## “知っていますか？” HAPPY TURN/神津島

2018年に始動した神津島でのアートプロジェクト。島で暮らしている人、かつて島で暮らしていた人、島暮らしに興味のある人、島外で島を支援する人、大人も子ども、島に関わる様々な立場の人とつながり、それぞれの暮らし方や考え方を学び合うことで、「幸せなターン」の形を探っていきます。これまでインタビューなどのメディアづくり、空き家を活用した拠点づくりを進めてきました。

## 神津島村998 プロジェクト くるとについて

島にこれまでなかった 大きな黒板と音楽が流れるスピーカーのあるスケルトンの建物。ここは、島に暮らす人、働く人、旅する人、だれでも自由に使えるみんなの広場です。机も椅子も移動可能！Wi-Fiもあります。 来ると、遊べる。 来ると、出会える。 来ると、学べる。 来ると、見つかる。 来ると、〇〇 そんな場所になったらいいな、と名前を『くると』と付けました。また HAPPY TURN / 神津島の「TURN」にちなんで、「くるとターンする」島や、島の人を「くると見渡す」という意味もあります。

—息いれたい、おしゃべりしたい、集まりたい、何かしたい、  
そんな人は「くると」へどうぞ！

## “竹垣づくり進行中!!”

◎子どもたちが安心してあそべるように、庭に竹垣を作っています。  
\*★よから一緒にせりませう!★

12月の作業日は、  
12/7(土) 12/14(土)  
10:00~12:00 と 13:00~15:00

## くると 12月 カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7 竹垣
8	9	10	11	12	13	14 竹垣
15	16	17	18	19 ヴィンテージ	20	21 リース
22	23	24	25 *1/11*22!	26 イスを作る!	27	28
29	30	31				

◎1月のおしらせは、12/24(土)と12/25(日)を1週間お休み  
happyturn-kouzu

### くるとにくると

天土山と花が、女子きんぐ。以前は八丈島竹垣プロジェクト。アツカワシロ東京の人。出身は茨城県。近頃は、くるとの2人組をキックした人。THEプロフェッショナル。中継リポートが女子きんぐ。

アクセス 前浜海岸から徒歩6分、神津島村診療所近く(東京都神津島村998)  
オープン 木 金 土【10:00~16:00】※変更あり  
★どなたでも自由にお使いいただけます。飲食可 フリ Wi-Fi  
問い合わせ 080-1346-2800 (オープン時のみ)  
※内容は変更になる場合があります

じまきよくのつばき

どうもはじめまして。くるとのおしらせについて発行スタートしました。このおたよりは、「島アートプロジェクト??何をやっているのかわからない」という声から、「HAPPY TURN / 神津島」とは何か、「くると」はどんなことをしているのか、少しでも気になってもらおう!と、生まれたおたよりです。毎月心をこめて作りますので、読んで気にならなくるとに感じ、来てみてください。ではまた次回!





HAPPY  
TURN

／神津島

# くると

令和5年度  
ラスト号の  
お知らせ Vol.5

令和2年3月発行

## 3月のできごと ◎庭の竹がき フリ=完成!!!

広い庭ができてから、柵がないと、「どこまでが庭」かわからなくて心配!!という声からスタートした竹がきづくり。

→先日、大学生ボランティアEcoFFの春日程チームが、手伝いに来てくださり、フリ=完成しました! 8月~約7ヶ月が経ちました!!



Before



After! すてきな庭になりました◎

今までご協力くださったみなさま  
ありがとう  
ございました!

◎山へ行き竹を切り出す所から始めたので、なかなか大変でしたが、<sup>たまたま</sup>見かたのおおかげで、<sup>完成しました。</sup>ここで安心して遊べますね!

ゆっくりと変化している村中のこの場所ですが、1年前と比べてみると 小屋がなくなり 芝がはえ、竹垣ができ 大きな変化をしているなあと実感します。これからも、こんな変化のスピードにお付き合いいただければ幸いです。 中村圭

## HAPPY TURN / 神津島の1年

- 4月 拠点見学会開催
- 5月 大エ小屋展(6/12)
- 6月 拠点プレオープン
- 7月 黒板づくり
- 8月 庭の竹がきづくり
- 9月 台風休業
- 10月 オープン再開!
- 11月 おたよりスタート
- 12月 イス＆ソワワワークショップ
- 1月 花正月イベント
- 2月 二十五日にワワワークショップ
- 3月 コナ村策休業

山あり?谷あり?HAPPYあり!の1年、本当にありがとうございました。まだお話ししたいです、来度もご理解、ご協力をお願いします。

### くると

現在新型コロナウイルス感染拡大防止のため休業中です。再開が決まり次第お知らせいたします。

アクセス | 前浜海岸から徒歩6分、神津島村診療所近く(東京都神津島村998)  
 オープン 木 金 土【10:00~16:00】※現在休業中  
 ★どなたでも自由にお使いいただけます。飲食可 フリ Wi-Fi  
 問い合わせ 080-1346-2800(オープン時のみ)  
 ※内容は変更になる場合があります

### じまきよくのつぶやき

あたたかい風が吹き始めた神津島。換気くるとは休業中ですが、私たち事務局スタッフは今年度の報告書の作成や来年度に向けた話し合いをしながら機材だしく過ごしております。いろいろな人が出入りできるような場所にしてほしい、なかなかすぐには再開とはなりません。しっかりと準備する期間だと思い、今できることをコツコツと。もう少ししたら、春と夏に元気な芝生の種を庭に撒きます。今よりもっとふかふかの芝生でみんなでお遊べたらいいですね。オープンできたら、またくるとで会いましょう。





# 9

## 2019 元 年 SEPTEMBER 長月(ながつき)

# 日

SUNDAY

# 月

MONDAY

# 火

TUESDAY

二黒  
仏滅  
うし

# 1

旧八月  
大三日

中潮 満潮 05:44 18:32 / 干潮 00:00 12:21

一白  
大安  
とら

# 2

旧四  
日

中潮 満潮 06:29 19:00 / 干潮 00:38 12:58

九紫  
赤口  
う

# 3

旧五  
日

中潮 満潮 07:16 19:26 / 干潮 01:15 13:33

四緑  
大安  
さる

# 8

旧十  
日

長潮 満潮 14:45 23:06 / 干潮 06:24 18:51

三碧  
赤口  
とら

# 9

旧十一  
日

若潮 満潮 15:29 -- / 干潮 07:45 20:24

二黒  
先勝  
いぬ

# 10

旧十二  
日

中潮 満潮 01:36 15:59 / 干潮 08:44 21:18

六白  
赤口  
う

# 15

旧十七  
日

五黄  
先勝  
たつ

# 16

旧十八  
日

四緑  
友

# 17

旧十九  
日







5月

大江小屋の解体



10月

拠点再オープン



6月

くるとの黒板づくり



12月

イズづくりワークショップ



8月

学生ボランティアと竹垣づくり



12月

リースづくりワークショップ



9月

台風により母家の屋根が飛ぶ



1月

中村圭の「タスクカー」



9月

森さん、岩沢兄弟、土田さん来島（拠点の最終仕上げ）



1月

る・どかるたづくり

（表）裏面を会議メモとして使っていたカレンダー  
（裏）本年度の主なできごと



# ← 2018年度（2018年4月～2019年3月）

4

「HAPPY TURN／神津島」は2018年1月に発足したプロジェクトだ。そのため年度としては2017年度からスタートしているともいえるが、当初は準備期間であり、具体的な活動は2018年度になった段階から徐々に動きはじめている。そのためこのドキュメントでは2018年度から年表をはじめることで、「HAPPY TURN／神津島」の展開をカバーしていく。

5

## プロジェクトウェブサイトの立ち上げ（5/25）

現在も「HAPPY TURN／神津島」における情報発信のプラットフォームとなるプロジェクトウェブサイトが立ち上がる。現在に至るまで、イベントの告知やブログ記事を発信する場として機能している。

## 『HAPPY TURN／神津島 通信 01』の発行および配布（5/26）

島へ「ターン」した人々を対象としたインタビューを収録したメディアが誕生。ビアバー「Hyuga Brewery」やフレンチレストラン「さわやコルドンブルー」の店主、東京から「離島留学生制度」を利用し留学している女子高生など、さまざまな背景の方へインタビューを行っている。11月には東京・池袋で行われた日本全国の島々が集まる祭典「アイランダー 2018」にてメディアの配布も行われた。

6

7

## 拠点の改修

候補地の視察を行い、予算確定のために見積もりの検討や拠点整備のプランニングがはじまる。7月には活動を周知するとともに支援や協力を募るべく、夕涼み会を開催。10月には大工へ見積もり依頼を行い、本格的に拠点の整備が進んでいく。

8

9

10

## 大掃除大会（10/21, 10/28, 12/22, 12/23, 1/12, 2/12, 2/17, 2/24, 3/3）

「イベント」という形になって表面化しないものの、2018年度は拠点オープンに向けたさまざまな整備が進められた1年となった。6月から拠点の改装計画ははじめていたものの、まずは掃除を終わらせなければいけない。島民の方やときには観光で来た人など、さまざまな人々に力を貸してもらいながら掃除や片付けを行った。大掃除大会は10月～3月の間に計9回行われ、のべ50名以上の人に参加した。

11

12

1

2

3

## 事業の基本方針および運営基盤構築のためのリサーチプログラム（3/12～15）

「HAPPY TURN／神津島」の方針を定めていくべく、鳥取県鳥取市の「たみ」（ゲストハウス）や「ホスピテイル」（ギャラリー、イベントスペース運営）など、参考になるプロジェクトのリサーチが進められた。

## 拠点プレオープン・お披露目会（3/30～4/1）

外壁のリノベーションや内装の整備が進み拠点として活用できるようになったため、年度末にお披露目会が実施された。拠点を訪れる島民の方々にプロジェクトのコンセプトについて説明するなど、地域との接点をつくる試みが行われた。



# 現場の声をあつめた当事者年表

4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
1  
2  
3

「HAPPY TURN／神津島」は2018年1月に発足したプロジェクトだ。そのため年度としては2017年度からスタートしているともいえるが、当初は準備期間であり、具体的な活動は2018年度になった段階から徐々に動きは始めている。そのためこのドキュメントでは2018年度から年表をはじめめることで、「HAPPY TURN／神津島」の展開をカバーしていく。

中

神津島ヘリサーチに来ていたアーツカウンシル東京の方とお会いした際に、「東京アートポイント計画」の一環として何かやろうという話になったんです。そこで2017年12月に「NPO法人神津島盛り上げ隊」を設立し、2018年1月から「HAPPY TURN／神津島」をはじめることになりました。

## プロジェクトウェブサイトの立ち上げ (5/25)

現在も「HAPPY TURN／神津島」における情報発信のプラットフォームとなるプロジェクトウェブサイトが立ち上がる。現在に至るまで、イベントの告知やブログ記事を発信する場として機能している。

中

このころはまだ拠点もないですし、ミーティングには参加していたもののそこまで積極的に動いてはいませんでした。NPO法人神津島盛り上げ隊としてほかの事業を行っていたり、並行していろいろなことをやっています。

## 『HAPPY TURN／神津島 通信 01』の発行および配布 (5/26)

島へ「ターン」した人々を対象としたインタビューを収録したメディアが誕生。ビアバー「Hyuga Brewery」やフレンチレストラン「さわやコルドンブルー」の店主、東京から「離島留学生制度」を利用して留学している女子高生など、さまざまな背景の方へインタビューを行っている。11月には東京・池袋で行われた日本全国の島々が集まる祭典「アイランダー 2018」にてメディアの配布も行われた。

中

インタビューにも同席しましたし制作にも付き添っていたんですが、自分が主体的につくったわけでもなかったんで、出来上がったものを見たときは不思議な感じがしたね。綺麗にできすぎてしまったので、1号限りで終わってしまいました。

## 岩沢兄弟、プロジェクト参画

岩

ぼくたちは2018年6月に初めて神津島を訪れ、中村さんにお会いしました。プロジェクト自体ははじまっていたけどあまり動いていない状態でもあったので、まずはとにかく動きましようということで拠点候補の元中華料理店「常吉亭」の片付けや解体を進めることから活動がスタートしたことを覚えています。

## 拠点の改修

候補地の視察を行い、予算確定のために見積もりの検討や拠点整備のプランニングがはじまる。7月には活動を周知するとともに支援や協力を募るべく、夕涼み会を開催。10月には大工へ見積もり依頼を行い、本格的に拠点の整備が進んでいく。

中

この頃は岩沢さんたちとともに常吉亭の解体と掃除をどんどん進めていましたね。夏は急遽、夕涼み飲み会と題して懇親会をひらいたこともありまして。岩沢さんから「今から人を呼ぼう!」と言われて、ビールケースをかき集めて机をつくって、20人くらい集まって盛り上がりましたよね。

岩

もちろん片付けも大事なんですけど、これからここで何かが起きるよって宣言をした方がいいんじゃないかと思ったんです。そこからは拠点の設計も進めながら来島するたびにいろいろな作業を進めていました。

## 飯島知代、プロジェクト参画

飯

私は神津島出身ではなくて、2017年から夏だけ神津島の海の家に住み込みで働いていました。2018年に海の家の住み込み仕事が終わったタイミングで、中村から「HAPPY TURN／神津島」の相談を受けました。私もそうでしたが、このころは何をするのかわからない「アートプロジェクト」という名前に対する風当たりも強く、プロジェクトの体制も整っていない、島の一部の方と衝突してしまうこともあったように思います。でも、話を聞いているうちに、悪いプロジェクトではなさそうだと思えてきて。仕事も住む場所もあるならと事務局を引き受けることになったんです。

## 大掃除大会 (10/21, 10/28, 12/22, 12/23, 1/12, 2/12, 2/17, 2/24, 3/3)

「イベント」という形になって表面化しないものの、2018年度は拠点オープンに向けたさまざまな整備が進められた1年となった。6月から拠点の改装計画ははじまっていたものの、まずは掃除を終わらせなければいけない。島民の方やときには観光で来た人など、さまざまな人々に力を貸してもらいながら掃除や片付けを行った。大掃除大会は10月～3月の間に計9回行われ、のべ50名以上の人が参加した。

岩

何をしてくれるのかわからないように見える活動を、島外から来た僕らと一緒にやっていることもあって「中村圭は操り人形になってる」って名言が生み出されたこともありましてね。

岩

拠点をゼロからつくるプロジェクトは珍しいかもしれませんが。事務局のみなさんや島の方々イメージをすり合わせるのも時間がかかりました。たとえば漫画喫茶をつくらみんな喜ぶかもしれないけれど、ただの「サービス」になってしまう。「何かわからない場所をつくる」と言い続けてください、と言っていた気がします。

飯

何にも知識のなかった私が「アートプロジェクト」とは何か掴むために、リサーチプログラムはとても重要でした。2018年からも続けています。ほかの東京アートポイント計画の団体や、卒業団体を訪れてヒントをもらうこともありました。特に大阪の西成に行き「プレーカープロジェクト」の現場を見て、ディレクターの雨森さんやきむらとしろうじんじんさんにお会いしたこと、同じく大阪の西成にある「ココルーム」(ゲストハウス)に行き、代表の上田假奈代さんにお会いしたことはとても刺激になりました。

飯

拠点オープンに向けて準備を進めるなかで、島の方々とのコミュニケーションも変わりました。掃除大会を重ねると徐々にこどもが集まる場所になってきていたし、周りの人も多分よくわからない場所を受け入れはじめていたというが。

岩

飯島さんが「私もよくわかんないんですよ」って言えるのが大事だな。こういう場所ですと説明できると、予め設定されている明確な課題を解決するための場所だと思われてしまうから。

## 事業の基本方針および運営基盤構築のためのリサーチプログラム (3/12~15)

「HAPPY TURN／神津島」の方針を定めていくべく、鳥取県鳥取市の「たみ」(ゲストハウス)や「ホスピテイル」(ギャラリー、イベントスペース運営)など、参考になるプロジェクトのリサーチが進められた。

## 拠点プレオープン・お披露目会 (3/30~4/1)

外壁のリノベーションや内装の整備が進み拠点として活用できるようになったため、年度末にお披露目会が実施された。拠点を訪れる島民の方々にプロジェクトのコンセプトについて説明するなど、地域との接点をつくる試みが行われた。

## 【アーツカウンシル東京 担当プログラムオフィサーのひとこと】

単に参加して楽しむだけのものとして消費するのではなく、自分の心を使って感じ、えいっと飛び込んで変化する。安心してその練習ができるプラットフォームとしてのアートプロジェクトをはじめ、ひょっとして今はチャンスなんじゃないか。(雨貝未来)



全文はこちら



3月30日～4月1日

HAPPY TURN  
／ 神津島



お手伝い本当にありがとうございました。

NPO 法人神津島盛り上げ隊 HAPPY TURN / 神津島 プロジェクトチーム

3月30日～4月1日

HAPPY TURN  
／ 神津島



お手伝い本当にありがとうございました。

NPO 法人神津島盛り上げ隊 HAPPY TURN / 神津島 プロジェクトチーム

3月30日～4月1日

HAPPY TURN  
／ 神津島



お手伝い本当にありがとうございました。

NPO 法人神津島盛り上げ隊 HAPPY TURN / 神津島 プロジェクトチーム

3月30日～4月1日

HAPPY TURN  
／ 神津島



お手伝い本当にありがとうございました。

NPO 法人神津島盛り上げ隊 HAPPY TURN / 神津島 プロジェクトチーム



## 旧常吉亭の屋根修理



(表) 拠点プレオープン時に配られたチケット  
※『HAPPY TURN CHRONICLE』用(2)再編集









大掃除大会





# HAPPY TURN

## 神津島

「幸せなターン」

を考えるプロジェクト、



東京の島ではじまります!

通信

01

島に来るまでと、島に来てからを聞く



## 神津島盛り上げ隊について

「神津島を知る・学ぶ・楽しむ、暮らしやすくする」をテーマに、島の10年、20年、30年先を見据えて、人と人との架け橋となる活動をしています。メンバーは、島のおっちゃん、Uターン※1/Uターン※2してきた若者など。2015年に完結し、2017年にNPO法人化。様々な関わり方を大事にししながら、多くの人にとって「故郷」と思える島へ!

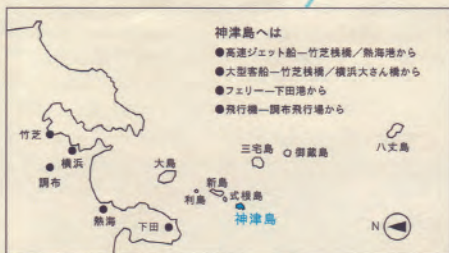
※1「Uターン」=生まれ育った出身地に戻り、暮らすこと

※2「Uターン」=出身地以外の地域に移住し、暮らすこと

## 神津島について

伊豆諸島の神様達が集まったとされる神津島(こうづしま)。東京都心から南に約180kmに位置し、大型客船で約12時間、飛行機に乗れば45分まで到着する「東京の島」です。人口は約1900人。緑豊かな山々、透き通った海、真っ赤な金目鯛、夜空に輝く満天の星や、湧水的神話が残るほど豊富な水資源など、豊かな自然に恵まれています。

神津島の村落は1つにまとまっているため、島民のつながりがとても強く、島独特の風習は顔々と引き継がれています。例えば、若い漁師が神社を駆け走る無形文化財「かつお釣り神事」や、ある日の夜は街中を出歩いてはいけないと言われている風習「二十五日様」など。自然の恵みに感謝し、連続と受け継がれる伝統文化を大切に、島の風土を生かした暮らしがある島です。



## ウェブサイトにて情報発信中!

[www.happyturn-kozu.tokyo](http://www.happyturn-kozu.tokyo)

活動に関する記事やプロジェクトサポーターの募集、今後のイベント告知など、「HAPPY TURN/神津島」についての情報を発信していきます。島に住んでいる人も、島を離れて暮らしている人も、「HAPPY TURNについてもっと知りたい」「何か関わってみたい!」と思った方はぜひご覧ください!

## 編集後記

人は今この瞬間に至るまで、多くの選択をしてきた。晩ご飯、旅行、恋愛、就職先、定住先などもすべて選択であって、それは今につながる。選択肢を多く持てる事が、自分らしい人生にさせてくれるのではないだろうか。私がUターンするという選択、「HAPPY TURN」プロジェクトを進めるという選択をしていった先で、みなさんにとって多くの選択肢が見つかる機会となれば嬉しく思います。 — 中村 圭

“豊か”とは何か。“幸せ”とは何か。神津島には、コンビニがない、ふらっと立ち寄れるカフェがない、おしゃれな服屋もなければ、ガラガラ輝くネオンもない。では、その生活が貧しいか、と言われるとそうではない。真っ白な砂浜とコバルトブルーに染まる海、家族や友人とゆっくり過ごす時間、ないものは自分自身でつくる面白さがある。モノに溢れることだけが“豊か”ではない。便利に甘えることが“幸せ”ではない。幸せのものさしは日々更新できる。今回取材した方は、島暮らしのなかで幸せを上手に見つけていた。インタビューを通して、幸せの在り処について考える機会となりました。 — 佐藤かおり

今回取材した7名からは、神津島に移住する際の様々な「縁」を伺うことができました。それは家族だったり、仕事だったり、セカンドライフだったり……。今思えば、私自身も運命と思えるような縁がきっかけで神津島に移住しました。その一方で、移住する際の悩みや決意など、きれいごとばかりではないことも含めて、改めて島で暮らすことを学ばせてもらいました。そのような移住者の姿勢や思いを、少しでも感じていただけたら幸いです。 — 古谷 亘



左から、中村 圭、佐藤かおり、古谷 亘(神津島盛り上げ隊)

### 【HAPPY TURN/神津島】

主 催 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
特定非営利活動法人神津島盛り上げ隊

### 【通信01】

企画 編集 中村 圭、佐藤かおり、古谷 亘(神津島盛り上げ隊)  
上地里佳、坂本有理(アーツカウンシル東京)

ディレクション 川村 裕夫  
執筆 中田 一会(きてん企画室)  
写真 川瀬 一絵(ゆかい)  
デザイン 大内かよ(DKデザイン室)  
発行日 2018(平成30)年5月26日  
発行 アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

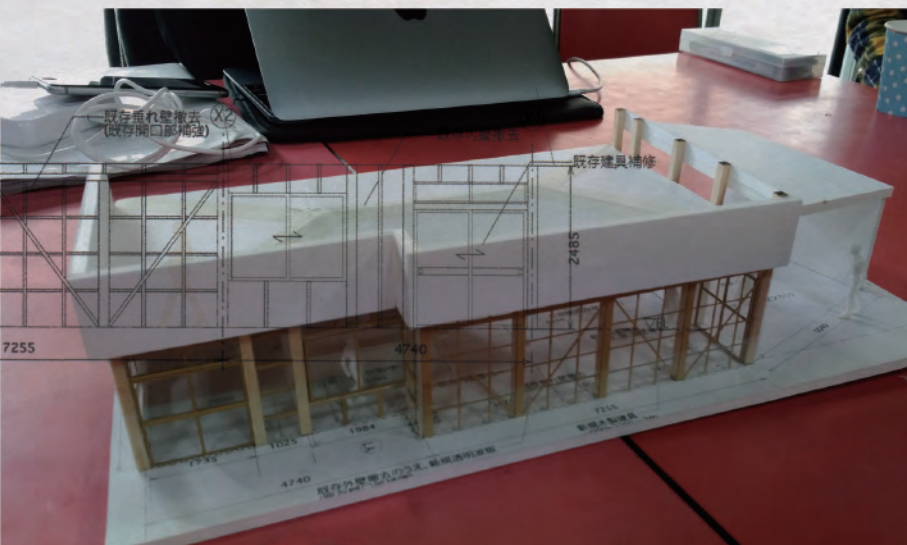
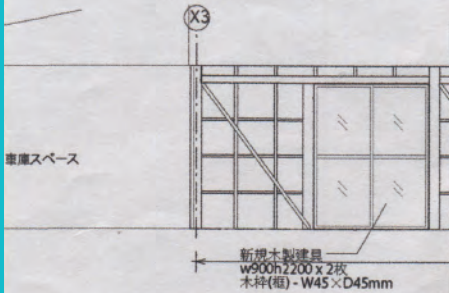
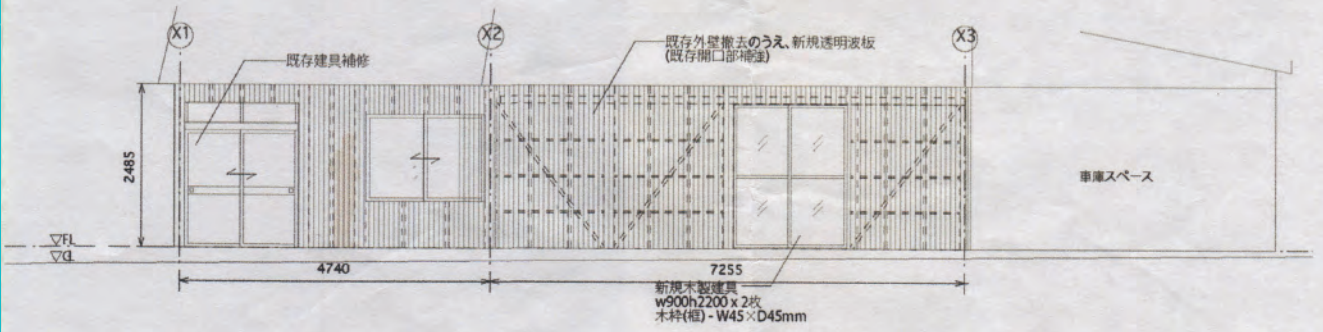
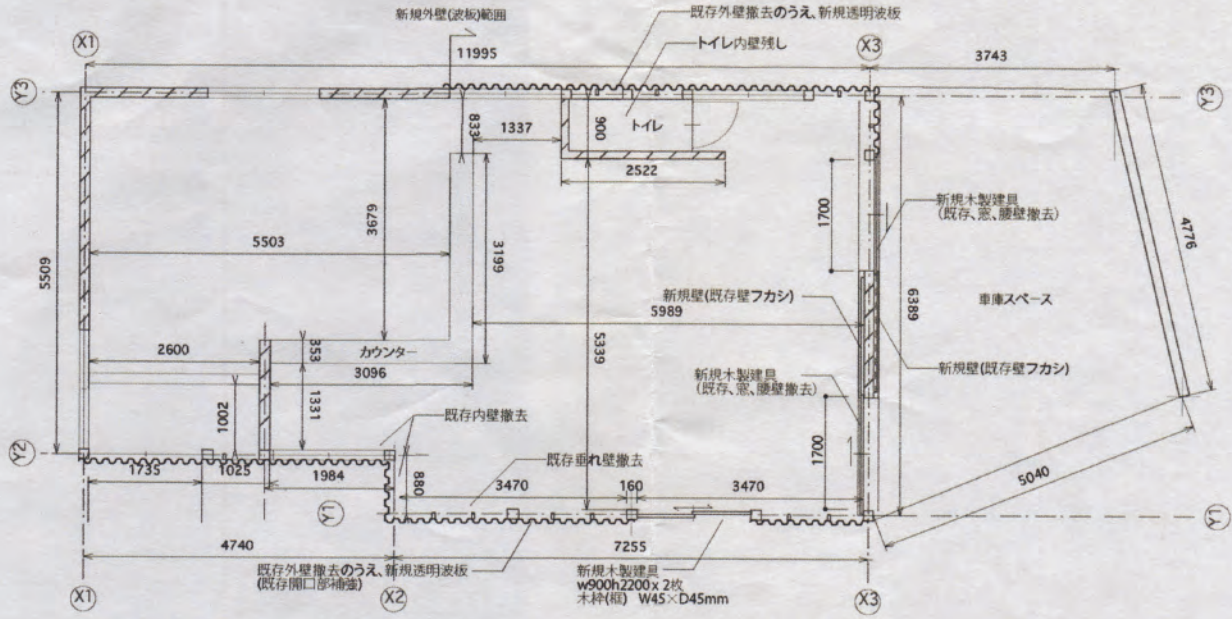
### 【お問い合わせ】

特定非営利活動法人神津島盛り上げ隊  
メール: info@kouzumoriage.tokyo

※本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています

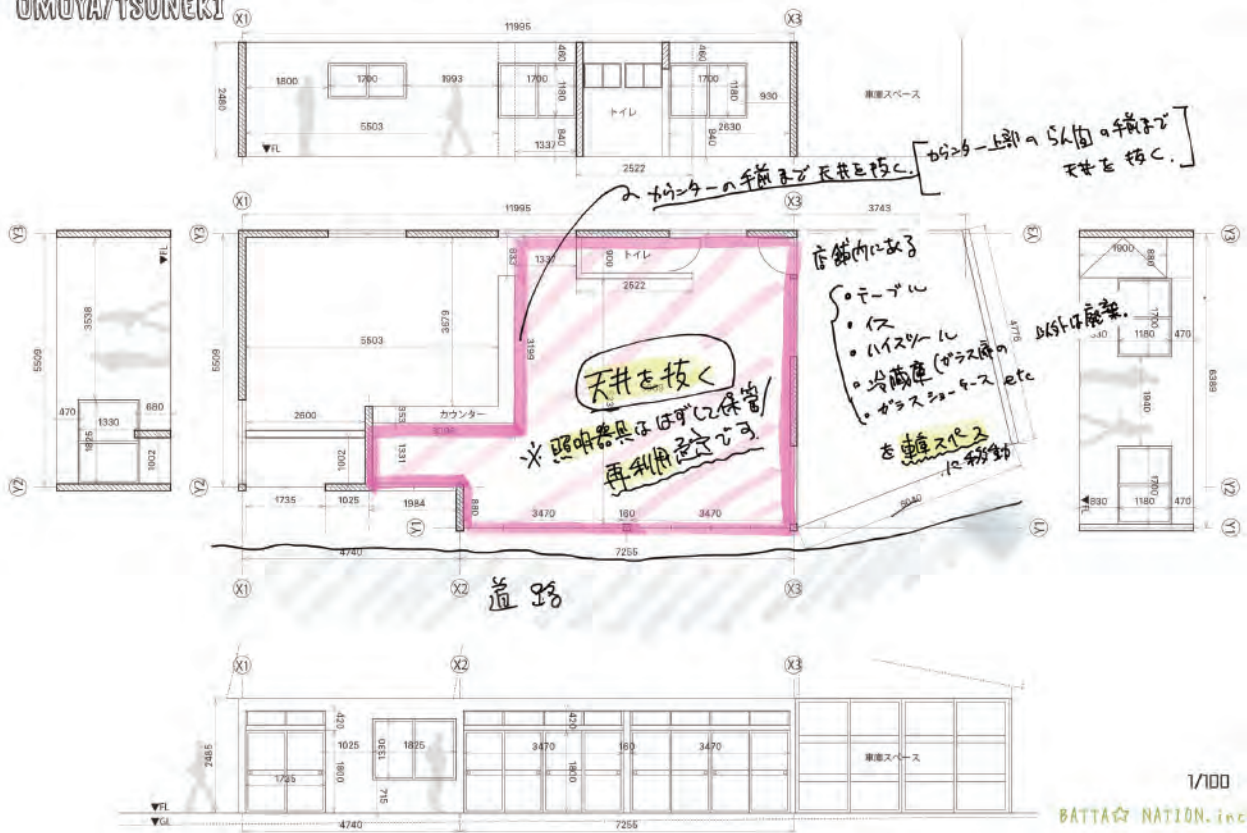






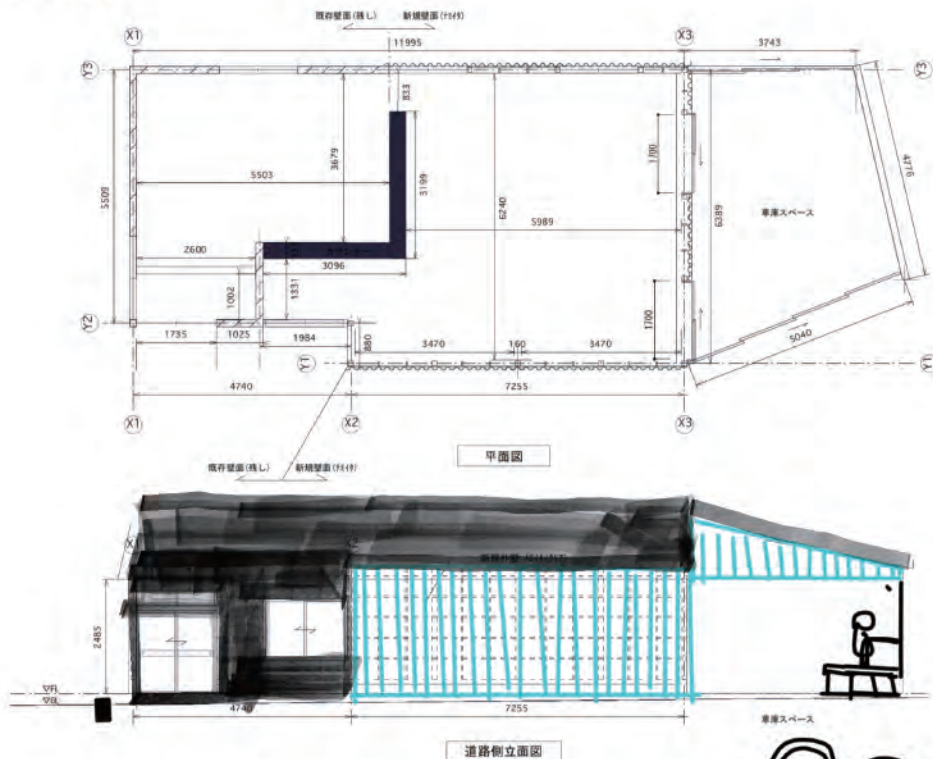


OMOYA/TSUNEKI



神津島HappyTurnProject  
OMOYA/TSUNEKI

2018.12.22提案



1/100

BATTA☆NATION.inc

旧常吉亭を拠点化する改修計画画面  
設計 岩沢兄弟

※「HAPPY TURN CHRONICLE」用リ再編集





# 8

2018/AUG

日 SUN

29

月 MON

30

火 TUE

31

11日 山の 日  
1日 八立旧処 朔  
7日 立 秋  
17日 旧 夕  
23日 処 暑  
25日 旧 ぼ ん

# 5

つちのと み・七赤大安旧24

# 6

かのえ うま 六白赤口旧25

# 7

かのと ひつし 五黄先勝

# 12

ひのえ ね 九紫友引旧2

# 13

ひのと うし 八白先負旧3

# 14

つちのえ とら 七赤仏滅

2018 9 SEPTEMBER

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 <sub>30</sub>	24	25	26	27	28	29

# 19

みずのとひつし 一黒先負旧9

# 20

きのえ さる 一白仏滅旧10

# 21

きのと とり 九紫大安

# 26

かのえ とら 四緑仏滅旧16

# 27

かのと う 三碧大安旧17

# 28

みずのえ たつ 二黒赤口

祝日法の改正などにより、祝日・休日・行事が一部変更になることがあります





(表) 裏面を会議メモとして使っていたカレンダー  
(裏) 拠点ができるまでの様子



## わかりあえないままでいること

「前向きになれないことをやってるの?」と、言われた。答えられず泣いた。プロジェクトのことがわからなかった。アートのことがわからなかった。わからないことを進めるのが怖かった。島の人に受け入れられてないと思い悩んだ。おまけに中村圭とはいつまで経ってもわかりあえない。いつ辞めてもいいと思っていたが、悔しくて、辞められなかった。

アーツのプログラムオフィサーさんと、岩沢兄弟のふたりとさまざまな仕掛けを考え、続けているうちに、子どもや大人が少しずつ訪ねてくるようになった。何だかわからない場所でこそ集まれる人がいることの実感があった。中村圭をはじめ、人とわかりあえないこと、わかってもらえないことはしょうがないと思うことにした。わかりあえない人たちが少しずつ接点をもちながら、同時に存在できるのが「くると」なのだとわかってきた。その「くるとらしさ」を共有できるスタッフが増えた。アーティストが島に来て、見ている世界を分けてくれた。続けるなかで想像もしない素晴らしい景色に出会った。大事だったのは、わからなくても怖がらずに受け入れて進んでみるということ。わかりあえることが正義だと思わずに相手を受け入れ、自分や他人の解釈のまま進む面白さを味わうこと。私は前より少し優しくなったと思う。

たくさんの人に関わってもらいながら、このプロジェクトを通して見た風景、子どもも大人もアーティストも個として同時に存在する世界。生きやすさのような。「HAPPY TURN／神津島」はそういうものだといまは思っている。とても前向きに。

HAPPY TURN／神津島 事務局 飯島知代

## 場が生きること

「場が死んでいる」。2019年9月、森さん（東京アートポイント計画ディレクター）から、そんな言葉をいただいた。それは、猛烈な台風15号が神津島を襲い、被害を受けたHAPPY TURN／神津島の拠点「くると」を臨時休館としている際に、立ち直りきれていない拠点の様子を森さんが実際に目にしたときのことだった。ここを生み出すために1年以上かけて行っていた解体、掃除、片付け、ゴミ出しの無限ループを抜け出して、空き家・空き店舗だった場に魂がやっと入りかけた矢先の出来事であり、ショックも大きかった。幸いに、徐々に気力を取り戻し、1ヶ月ほどで運営を再開することができた。そして、この経験を通じて、場が生きている尊さを強く思うようになった。

5歳を迎えたくるとだが、立ち寄る人影は変われど、場の気持ちはずっと変わっていないと感じている。くるとの雰囲気になんか人生の中でちょっとでも心で触れたことは、島に意味があると信じている。そう、場が生きるということは人が生きること。人が生きてくるということは島が生きることだから。今後も、あらゆる場を片付けて、掃除して、少しずつ息を吹き返させて、神津島と関わる人により多くのHAPPY TURNを生み出す野望はまだまだ尽きません。

HAPPY TURN／神津島 事務局 中村圭







## 「HAPPY TURN／神津島」の日々に寄せて

島を離れて働きに出たあと、再び島に戻ってくることを意味する「しまってくる」という言葉に「HAPPY TURN／神津島」のディレクターである中村さんはもどかしさを感じていたといいます。そこには、店じまいをするように、やろうとしていたことを諦めて島に戻るという後ろ向きな見方があるということです。しかし、それを不幸せな転機と決めつけていいのだろうか。それぞれに人生の考え方があり、幸せな気持ちで島に来ることもある。たとえ失敗や苦労があろうとも、ここでの日常には新たな巡り合わせがあるはずだ。そうして、島にゆかりのある人々が、島での思い出、風土、暮らしや学びを通じて、より豊かに生きるための「ターン」を探すプロジェクトがはじまりました。

いまやプロジェクトの顔となったのは、村中の拠点「くると」です。かつてここには大工小屋と中華料理店がありました。大工小屋はみんなで掃除をすることからはじめて、一休みをして眺めて、解体して、いまでは跡地に大きな庭が広がっています。中華料理店は食堂の趣きを残しながらも、隣接する道路から部屋の内側が見えるように壁をスケルトンの波板につくり変え、玄関口の屋根下には一面の黒板を設えました。さて、ここはいったい何になるのか。あえてそれを決められないままに長い時間が経つこととなりました。

事務局長の飯島さんも、はじめはカフェとも貸しスペースとも呼ぶことのできない「くると」の説明に困っていたといいます。それでも3年、4年と過ごすうちに、ここはいまでも完成していない、ずっとつくりかけで、ずっと変わっていく場所なのだ、立ち寄る人々を出迎えています。放課後になれば子どもたちが走りまわり、イベントをひらくと中高生からご年配の方々まで暖簾をくぐって会話に花を咲かせます。吹きすさぶ風や波の音に混じり、木を叩く音、チョークが削れる音、紙を切る音、土を掘る音があちらこちらで響く時間が「くると」の日常になりました。

このプロジェクトも、この場所も、誰かひとりのものではありませんでした。これまで数えきれない人々が行き交い、ときには雨が降ったからこそ地が固まり、いつも何かが起こりそうな、どこへでも歩きだせそうな気配が育まれたのだと思います。ここに「来ると」いまの暮らしからすこし踏み出して、遊べる、出会える、学べる、見つかる。そうしてくるっと視点を変えてみる。日々のプロジェクト運営に力添えいただいたみなさま、そしてこの年表を手にとっていただいた方々が、そうしたささやかなターンのヒントを見つけていただけたなら幸いです。



# HAPPY TURN CHRONICLE

監修 岩沢兄弟（いわさわひとし・いわさわたかし）

事務局 中村圭、飯島知代

編集 石神俊大

アートディレクション・デザイン 美山有

プログラムオフィサー 櫻井駿介、入江彩美

発行日 令和5年3月15日

発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階  
TEL 03-6256-8435 FAX 03-6256-8829  
URL <https://www.artscouncil-tokyo.jp>

Special Thanks ご協力いただいた神津島村のみなさま

主催 東京都

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
一般社団法人シマクラス神津島

問合せ 一般社団法人シマクラス神津島

〒100-0601 東京都神津島村998番地  
E-MAIL [shimakurasu@gmail.com](mailto:shimakurasu@gmail.com)

「HAPPY TURN／神津島」は東京アートポイント計画の一環として実施しています。

東京アートポイント計画は、社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトをとおして、個人が豊かに生きていくための関係づくりや創造的な活動が生まれる仕組みづくりに取り組んでいます。

「HAPPY TURN／神津島」公式ウェブサイト

<http://happyturn-kozu.tokyo>

ISBN 978-4-909894-42-7 C0070

© Arts Council Tokyo



HAPPY  
TURN  
／神津島





